

令和5年度 教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

理論と実践の往還を通じた教育実習等の在り方に関する研究

【webアンケート調査結果の概要：全体編】

令和6年3月

大阪教育大学

目 次

はじめに.....	1
1. 調査方法の概要	2
(1) 調査方法	2
(2) 回答大学について	2
2. 調査結果の概要	4
【1】教育実習の実態	4
(1) 取得可能な教員免許状の種類.....	4
(2) 教育実習の実施日数.....	5
(3) 教育実習の実施時期.....	5
(4) 実習と大学の授業の重なり.....	10
(5) 実習校の種類.....	11
(6) 学校体験活動の実施.....	13
(7) 学校体験活動の教育実習への位置づけ.....	16
(8) 教育実習における学校体験活動の日数	19
(9) 令和4年度の学校体験活動の実績	20
(10) 令和4年度の学校体験活動の日数.....	23
(11) 学校体験活動の単位化	24
(12) 学校体験活動の単位数と実施時期	27
(13) 事前指導の実施時期	31
(14) 事前指導の実施回数	35
(15) 事前指導の内容	36
(16) 事前指導の実施方法	37
(17) 事後指導の実施時期	38
(18) 事後指導の実施回数	43
(19) 事後指導の内容	43
(20) 事後指導の実施方法	45
(21) 教育実習の目標の設定	45
(22) 教育実習の活動内容の設定.....	46
(23) 評価表の作成	47
(24) 評価方法	47
(25) 教育実習の活動内容	49

(26) 実習に位置付いた学校体験活動の活動内容	49
(27) 実習生の退勤時刻の管理	50
(28) 実習経費の支払い	51
(29) 実習生の負担感の把握	52
(30) 大学の指導教員の役割	53
(31) 合理的配慮や支援を必要とする学生への対応	54
(32) 実習記録の媒体	55
(33) 教育実習におけるICT活用	56
(34) 働き方改革を受けて教育実習のあり方の変化	57
(35) 実習校での実習指導のありかた	58
(36) 実習指導教員への指導やサポート	59
(37) 実習受入のメリットややりがいの提供	59
(38) 困り事やトラブルへの対応	60
(39) ハラスメント対応の学生周知	61
(40) ハラスメントへの対応	62
(41) 臨時休業の場合の教育実習の実施方針	63
(42) 介護等体験の実施先	64
(43) 介護等体験と教育実習等の関連	65
(44) 在外教育施設における教育実習の実績	65
 【2】中教審答申を受けた教育実習のあり方	66
(1) 教育実習実施の早期化	66
(2) 早期化の影響	67
(3) 教育実習実施の分散化	72
(4) 分散化の影響	73
(5) 教育実習の実施曜日等の固定化	74
(6) 実施曜日等固定化の影響	76
(7) 学校体験活動と大学の授業の結びつき	80
(8) 教育実習と大学の授業の結びつき	83
(9) 省察の活動	84
 おわりに	 86

はじめに

大阪教育大学では、文部科学省より「令和5年度 教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」を受託し、実施テーマ3「理論と実践の往還を通じた教育実習等の在り方に関する研究」をおこなないました。本調査結果は、この研究の成果報告の1つです。

本研究では、教員養成大学や教職課程を有する国公立の短期大学および4年制大学にwebアンケート調査とグループインタビュー調査をおこない、教育実習の実態や、中教審答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～」において示された教育実習のあり方等についての意見を取りまとめ、それらを参考にして、「教育効果の改善に資する教育実習等実施のガイドライン」を作成しました。

ガイドラインやその他の調査結果は、下記のURLからご覧いただけます。ご一読いただきますれば幸いです。

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/practice/tyosakenkyu/guideline.html>

なお、末筆になりましたが、本調査にご回答いただきました各大学の教職員の皆様、インタビュー調査にご回答くださいました各大学の教員の皆様、ご多忙にもかかわらず長時間にわたる回答作業にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。心より厚く御礼申し上げます。

また、本調査に取り組むにあたり、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、八尾市教育委員会、柏原市教育委員会、羽曳野市教育委員会、奈良県香芝市教育委員会、近畿大学、畿央大学の教職員の皆様から有意義なご指摘やご意見をいただきました。この場をお借りして改めて心より感謝申し上げます。

令和6年3月

大阪教育大学 石川 聡子

1. 調査方法の概要

(1) 調査方法

Google formを用いて作成したwebフォームを用いて、webアンケート調査をおこないました。

国内の731の国公立の短期大学および4年制大学（以後、大学と表記）に調査回答を依頼し、調査実施期間令和5年9月8日から10月6日の間に345の大学から回答を得ました。

そのうちの6大学からそれぞれ2回の回答があったため、これらの大学からの回答について、先に届いた回答を有効回答とし、後に届いた回答を無効回答としました。その結果、有効回答数339、回答率46.4%でした。

webフォームにおける調査項目は、後掲の調査結果の概要において、それぞれ調査結果と合わせて記載しています。

(2) 回答大学について

339の回答大学の短期大学・4年制の別、国立・公立・私立の別ならびに所在地域は次の通りです（図表1）。

339回答大学の免許取得パターンは多様であることから、免許取得のパターンに類似性がある大学をグルーピングしました（図表2）。同一グループに属する大学には、類似の免許取得パターンより、教育実習の実施等にも共通の特徴があることが考えられるためです。

グループAからグループIまでの9つのグループで、免許取得パターンの特徴を区別しました。

グループAは、中学校一種および高等学校一種が取得可能な4年制大学と、これらに加えて特別支援、養護教諭、栄養教諭の一種および二種の免許の中のいくつかも取得可能な4年制大学のグループであり、このグループに属する大学数は121、割合にすると35.7%と最も多いグループです。

次が、110大学で32.5%を占めるグループBで、幼稚園一種、小学校一種、中学校一種、高等学校一種が取得可能な4年制大学と、これらに加えて特別支援、養護教諭、栄養教諭の一種および二種免許の中のいくつかも取得可能な4年制大学です。グループCは短期大学で構成されており、幼稚園二種免許が取得可能な短期大学、さらにこれに加えて小学校、中学校、養護教諭、栄養教諭の二種免許の中のいくつかも取得可能な短期大学があり、そ

図表1 回答大学

	国立大学		公立大学		私立大学		計		
	短期大学	4年制大学	短期大学	4年制大学	短期大学	4年制大学	短期大学	4年制大学	
北海道	0	2	0	0	3	10	3	12	15 (4.4)
東北	0	2	0	4	5	7	5	13	18 (5.3)
関東	0	7	0	3	14	35	14	45	59 (17.4)
東京	0	6	0	1	1	37	1	44	45 (13.3)
中部	0	5	0	5	5	32	5	42	47 (13.9)
近畿	0	7	0	4	9	55	9	66	75 (22.1)
中国	0	4	1	5	3	13	4	22	26 (7.7)
四国	0	4	0	1	1	4	1	9	10 (3.0)
九州	0	7	1	4	9	23	10	34	44 (13.0)
計	0	44	2	27	50	216	52	287	
	44 (13.0)		29 (8.6)		266 (78.4)		339 (100.0)		

図表2 回答大学の免許取得パターン

グループ	取得免許の組み合わせパターン	大学数と割合 (n=339)	
A	中学校一種および高等学校一種が取得できる4年制大学。これらに加えて特支、養護、栄養や二種免が取得可能な大学も含む。	121	35.7%
B	幼稚園一種、小学校一種、中学校一種、高等学校一種が取得できる4年制大学。これらに加えて特支、養護、栄養や二種免が取得可能な大学も含む。	110	32.5%
C	幼稚園二種が取得できる短期大学。このほか、小学校、中学校、養護、栄養の二種免などが取得可能な短期大学も含む。	48	14.2%
D	幼稚園一種および小学校一種が取得できる4年制大学。これらに加えて中学校、特支、養護、栄養などが取得可能な大学も含む。	14	4.1%
E	高等学校一種が取得できる4年制大学。このほか、特支や養護が取得可能な大学も含む。	10	3.0%
F	養護教諭一種もしくは栄養教諭一種、これら両方が取得できる4年制大学。	9	2.7%
G	小学校一種、中学校一種、高等学校一種が取得できる4年制大学。これらに加えて特支や養護、二種免が取得可能な大学も含む。	9	2.7%
H	幼稚園一種、中学校一種、高等学校一種が取得できる4年制大学。これらに加えて特支、養護、栄養が取得可能な大学も含む。	8	2.4%
I	上記以外の組み合わせで免許を取得できる大学。	10	3.0%
計		339	100.0%

の該当大学数は48(14.2%)です。

その他、グループDは、幼稚園一種、小学校一種が取得可能な4年制大学と、これらに加えて中学校、特別支援、養護教諭、栄養教諭の一種および二種の免許の中のいくつかも取得可能な4年制大学が属し、14大学(4.1%)あります。グループE(10大学、3.0%)は高等学校一種およびこれに加えて特支や養護教諭の免許取得も可能な大学、グループF(9大学、2.7%)は養護教諭、栄養教諭、これら両方の取得が可能な大学、グループG(9大学、2.7%)は小学校、中学校(二種も含む)および高等学校の取得可能な大学、そしてこれらに加えて特別支援、養護教諭、栄養教諭の中のいくつかも取得可能な大学、グループH(8大学、2.4%)は幼稚園、中学校、高等学校の免許取得が可能な大学、そしてこれらに加えて特別支援、養護教諭、栄養教諭の中のいくつかも取得可能な大学です。

グループIは上記以外の組み合わせで免許取得が可能な大学(10大学、3.0%)でした。

以上のグループA、B、Cを合わせると全体の8割以上を占めていることから、webアンケート調査の結果について、339のすべての回答を集計した【全体編】の他に、グループAに当てはまる大学の回答を集計した【中・高免取得大学編】、グループBの大学の回答を集計した【幼・小・中・高免取得大学編】、同じくグループCの【短期大学編】の合わせて4つの調査結果の概要を作成しました。

本【調査結果の概要・全体編】は、全回答大学の調査結果の概要です。

2. 調査結果の概要

【1】教育実習の実態

(1) 取得可能な教員免許状の種類

質問文：

貴学において取得可能な教員免許状の種類等について、該当するものすべてを選択してください。

<結果の概要>

本調査に回答した大学において取得可能な免許種別は、図表【1】(1)の通りでした。

図表【1】(1) 取得可能な免許種別

免許種		回答数と割合(%)		
幼稚園	一種および二種	38	11.2%	339 (100)
	一種のみ	101	29.8%	
	二種のみ	47	13.9%	
	なし	153	45.1%	
小学校	一種および二種	32	9.4%	339 (100)
	一種のみ	102	30.1%	
	二種のみ	8	2.4%	
	なし	197	58.1%	
中学校	一種および二種	38	11.2%	339 (100)
	一種のみ	214	63.1%	
	二種のみ	6	1.8%	
	なし	81	23.9%	
高等学校	一種のみ	261	77.0%	339 (100)
	なし	78	23.0%	
特別支援	一種および二種	23	6.8%	339 (100)
	一種のみ	62	18.3%	
	二種のみ	1	0.3%	
	なし	253	74.6%	
養護教諭	一種および二種	10	2.9%	339 (100)
	一種のみ	54	15.9%	
	二種のみ	2	0.6%	
	なし	273	80.5%	
栄養教諭	一種および二種	7	2.1%	339 (100)
	一種のみ	55	16.2%	
	二種のみ	14	4.1%	
	なし	263	77.6%	

(2) 教育実習の実施日数

質問文：

貴学が定めている教育実習の実施日数は何日ですか。免許種ごとに回答してください。

また、「〇日間以上」等の場合は「〇日」の数字部分を回答してください。

<結果の概要>

幼稚園での実習では20および15日、小学校では20および15日、中学校では15および20、21日、高等学校では10および15日、特別支援では10および15日、養護教諭では15および20日、栄養教諭では8日未満および10日の実施日数が多くなっています。

図表【1】(2) 教育実習の実施日数

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援	養護教諭	栄養教諭
	回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)
8日未満	3 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	59 (76.6)
8日	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.2)	1 (1.2)	0 (0.0)	1 (1.3)
9日	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.5)	1 (1.3)
10日	24 (12.9)	5 (3.5)	4 (1.5)	163 (62.7)	53 (62.4)	3 (4.5)	12 (15.6)
11日	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
12日	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	2 (2.4)	1 (1.5)	0 (0.0)
13日	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
14日	1 (0.5)	1 (0.7)	2 (0.8)	27 (10.4)	2 (2.4)	0 (0.0)	1 (1.3)
15日	38 (20.4)	45 (31.9)	188 (72.6)	49 (18.8)	15 (17.6)	30 (44.8)	1 (1.3)
16日	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
17日	2 (1.1)	1 (0.7)	1 (0.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)
18日	3 (1.6)	5 (3.5)	3 (1.2)	1 (0.4)	2 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)
19日	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20日	98 (52.7)	69 (48.9)	26 (10.0)	7 (2.7)	3 (3.5)	25 (37.3)	2 (2.6)
21日	1 (0.5)	2 (1.4)	26 (10.0)	8 (3.1)	2 (2.4)	3 (4.5)	0 (0.0)
22日	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.2)	1 (1.5)	0 (0.0)
23日	1 (0.5)	1 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
24日	2 (1.1)	1 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
25日以上	9 (4.8)	11 (7.8)	7 (2.7)	1 (0.4)	4 (4.7)	2 (3.0)	0 (0.0)
合計	186 (100.0)	141 (100.0)	259 (100.0)	260 (100.0)	85 (100.0)	67 (100.0)	77 (100.0)

(3) 教育実習の実施時期

質問文：

教育実習の実施時期はいつ頃ですか。当てはまるものすべてを選択してください。

<結果の概要>

短期大学の幼稚園での実習は、3分の1程度が1年生で実習を実施していますが、その他の実習ではほとんどが2年生での実施です。

4年制大学について、幼稚園での実習は1,2年生1割,3年生4割,4年生4割強,小学校での実習は3年生が半数以上,4年生4割で実施しています。それ以外の実習では4年生の4月から12月までの間に7割から8割以上が実施しています。

図表【1】(3)① 教育実習の実施時期 幼稚園

実施時期	回答数と割合 (n=399)		実施時期	回答数と割合 (n=399)	
1年生・4～6月	7	1.8%	3年生・4～6月	30	7.5%
1年生・7～9月	12	3.0%	3年生・7～9月	48	12.0%
1年生・10～12月	20	5.0%	3年生・10～12月	41	10.3%
1年生・1～3月	7	1.8%	3年生・1～3月	14	3.5%
2年生・4～6月	36	9.0%	4年生・4～6月	55	13.8%
2年生・7～9月	26	6.5%	4年生・7～9月	46	11.5%
2年生・10～12月	25	6.3%	4年生・10～12月	28	7.0%
2年生・1～3月	2	0.5%	4年生・1～3月	2	0.5%
			計	399	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)② 教育実習の実施時期 幼稚園・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=106)		実施時期	回答数と割合 (n=106)	
1年生・4～6月	6	5.7%	2年生・4～6月	29	27.4%
1年生・7～9月	10	9.4%	2年生・7～9月	20	18.9%
1年生・10～12月	18	17.0%	2年生・10～12月	17	16.0%
1年生・1～3月	6	5.7%	2年生・1～3月	0	0.0%
			計	106	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)③ 教育実習の実施時期 幼稚園・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=293)		実施時期	回答数と割合 (n=293)	
1年生・4～6月	1	0.3%	3年生・4～6月	30	10.2%
1年生・7～9月	2	0.7%	3年生・7～9月	48	16.4%
1年生・10～12月	2	0.7%	3年生・10～12月	41	14.0%
1年生・1～3月	1	0.3%	3年生・1～3月	14	4.8%
2年生・4～6月	7	2.4%	4年生・4～6月	55	18.8%
2年生・7～9月	6	2.1%	4年生・7～9月	46	15.7%
2年生・10～12月	8	2.7%	4年生・10～12月	28	9.6%
2年生・1～3月	2	0.7%	4年生・1～3月	2	0.7%
			計	293	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)④ 教育実習の実施時期 小学校

実施時期	回答数と割合 (n=312)		実施時期	回答数と割合 (n=312)	
1年生・4～6月	1	0.3%	3年生・4～6月	27	9.0%
1年生・7～9月	2	0.6%	3年生・7～9月	77	24.7%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	58	18.6%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	6	1.9%
2年生・4～6月	4	1.3%	4年生・4～6月	50	16.0%
2年生・7～9月	5	1.6%	4年生・7～9月	44	14.1%
2年生・10～12月	4	1.3%	4年生・10～12月	31	9.9%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	2	0.6%
			計	311	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑤ 教育実習の実施時期 小学校・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=5)		実施時期	回答数と割合 (n=5)	
1年生・4～6月	0	0.0%	2年生・4～6月	3	60.0%
1年生・7～9月	0	0.0%	2年生・7～9月	0	0.0%
1年生・10～12月	0	0.0%	2年生・10～12月	2	40.0%
1年生・1～3月	0	0.0%	2年生・1～3月	0	0.0%
			計	5	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑥ 教育実習の実施時期 小学校・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=306)		実施時期	回答数と割合 (n=306)	
1年生・4～6月	1	0.3%	3年生・4～6月	27	8.8%
1年生・7～9月	2	0.7%	3年生・7～9月	77	25.2%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	58	19.0%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	6	2.0%
2年生・4～6月	1	0.3%	4年生・4～6月	50	16.3%
2年生・7～9月	5	1.6%	4年生・7～9月	44	14.4%
2年生・10～12月	2	0.7%	4年生・10～12月	31	10.1%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	2	0.7%
			計	306	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑦ 教育実習の実施時期 中学校

実施時期	回答数割合 (n=640)		実施時期	回答数割合 (n=640)	
1年生・4～6月	1	0.2%	3年生・4～6月	27	4.2%
1年生・7～9月	2	0.3%	3年生・7～9月	40	6.3%
1年生・10～12月	1	0.2%	3年生・10～12月	33	5.2%
1年生・1～3月	1	0.2%	3年生・1～3月	5	0.8%
2年生・4～6月	6	0.9%	4年生・4～6月	214	33.4%
2年生・7～9月	4	0.6%	4年生・7～9月	159	24.8%
2年生・10～12月	4	0.6%	4年生・10～12月	139	21.7%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	4	0.6%
			計	640	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑧ 教育実習の実施時期 中学校・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=12)		実施時期	回答数と割合 (n=12)	
1年生・4～6月	0	0.0%	2年生・4～6月	4	33.3%
1年生・7～9月	0	0.0%	2年生・7～9月	3	25.0%
1年生・10～12月	0	0.0%	2年生・10～12月	4	33.3%
1年生・1～3月	1	8.3%	2年生・1～3月	0	0.0%
			計	12	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑨ 教育実習の実施時期 中学校・4年制大学

実施時期	回答数割合 (n=628)		実施時期	回答数割合 (n=628)	
1年生・4～6月	1	0.2%	3年生・4～6月	27	4.3%
1年生・7～9月	2	0.3%	3年生・7～9月	40	6.4%
1年生・10～12月	1	0.2%	3年生・10～12月	33	5.3%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	5	0.8%
2年生・4～6月	2	0.3%	4年生・4～6月	214	34.1%
2年生・7～9月	1	0.2%	4年生・7～9月	159	25.3%
2年生・10～12月	0	0.0%	4年生・10～12月	139	22.1%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	4	0.6%
			計	628	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑩ 教育実習の実施時期 高等学校・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=615)		実施時期	回答数と割合 (n=615)	
1年生・4～6月	1	0.2%	3年生・4～6月	16	2.6%
1年生・7～9月	1	0.2%	3年生・7～9月	21	3.4%
1年生・10～12月	1	0.2%	3年生・10～12月	18	2.9%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	3	0.5%
2年生・4～6月	1	0.2%	4年生・4～6月	237	38.5%
2年生・7～9月	1	0.2%	4年生・7～9月	165	26.8%
2年生・10～12月	0	0.0%	4年生・10～12月	146	23.7%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	4	0.7%
			計	615	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑪ 教育実習の実施時期 特別支援・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=201)		実施時期	回答数と割合 (n=201)	
1年生・4～6月	1	0.5%	3年生・4～6月	5	2.5%
1年生・7～9月	1	0.5%	3年生・7～9月	10	5.0%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	15	7.5%
1年生・1～3月	1	0.5%	3年生・1～3月	7	3.5%
2年生・4～6月	2	1.0%	4年生・4～6月	39	19.4%
2年生・7～9月	3	1.5%	4年生・7～9月	57	28.4%
2年生・10～12月	2	1.0%	4年生・10～12月	53	26.4%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	5	2.5%
			計	201	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑫ 教育実習の実施時期 養護教諭

実施時期	回答数と割合 (n=122)		実施時期	回答数と割合 (n=122)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	7	5.7%
1年生・7～9月	2	1.6%	3年生・7～9月	11	9.0%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	9	7.4%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	1	0.8%
2年生・4～6月	5	4.1%	4年生・4～6月	39	32.0%
2年生・7～9月	2	1.6%	4年生・7～9月	28	23.0%
2年生・10～12月	2	1.6%	4年生・10～12月	15	12.3%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	1	0.8%
			計	122	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑬ 教育実習の実施時期 養護教諭・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=7)		実施時期	回答数と割合 (n=7)	
1年生・4～6月	0	0.0%	2年生・4～6月	4	57.1%
1年生・7～9月	0	0.0%	2年生・7～9月	2	28.6%
1年生・10～12月	0	0.0%	2年生・10～12月	1	14.3%
1年生・1～3月	0	0.0%	2年生・1～3月	0	0.0%
			計	7	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑭ 教育実習の実施時期 養護教諭・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=115)		実施時期	回答数と割合 (n=115)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	7	6.1%
1年生・7～9月	2	1.7%	3年生・7～9月	11	9.6%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	9	7.8%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	1	0.9%
2年生・4～6月	1	0.9%	4年生・4～6月	39	33.9%
2年生・7～9月	0	0.0%	4年生・7～9月	28	24.4%
2年生・10～12月	1	0.9%	4年生・10～12月	15	13.0%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	1	0.9%
			計	115	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑮ 教育実習の実施時期 栄養教諭

実施時期	回答数と割合 (n=129)		実施時期	回答数と割合 (n=129)	
1年生・4～6月	1	0.8%	3年生・4～6月	2	1.6%
1年生・7～9月	1	0.8%	3年生・7～9月	4	3.1%
1年生・10～12月	1	0.8%	3年生・10～12月	5	3.9%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	0	0.0%
2年生・4～6月	3	2.3%	4年生・4～6月	48	37.2%
2年生・7～9月	10	7.8%	4年生・7～9月	26	20.2%
2年生・10～12月	7	5.4%	4年生・10～12月	20	15.5%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	1	0.8%
			計	129	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑯ 教育実習の実施時期 栄養教諭・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=16)		実施時期	回答数と割合 (n=16)	
1年生・4～6月	0	0.0%	2年生・4～6月	1	6.3%
1年生・7～9月	0	0.0%	2年生・7～9月	9	56.3%
1年生・10～12月	0	0.0%	2年生・10～12月	6	37.5%
1年生・1～3月	0	0.0%	2年生・1～3月	0	0.0%
			計	16	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(3)⑰ 教育実習の実施時期 栄養教諭・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=113)		実施時期	回答数と割合 (n=113)	
1年生・4～6月	1	0.9%	3年生・4～6月	2	1.8%
1年生・7～9月	1	0.9%	3年生・7～9月	4	3.5%
1年生・10～12月	1	0.9%	3年生・10～12月	5	4.4%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	0	0.0%
2年生・4～6月	2	1.8%	4年生・4～6月	48	42.5%
2年生・7～9月	1	0.9%	4年生・7～9月	26	23.0%
2年生・10～12月	1	0.9%	4年生・10～12月	20	17.7%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	1	0.9%
			計	113	100.0%

(複数回答あり)

(4) 実習と大学の授業の重なり

質問文：

教育実習の実施時期は、大学の授業期間と重なっていますか。

<結果の概要>

教育実習と大学の授業が、5月～7月にかけて重なっているという回答が5割近く、9月～11月にかけて重なっているという回答が4割近くありました。教育実習と授業が重ならないという回答もわずかにありました。

図表【1】(4) 実習と授業の重なる時期

実施時期	回答数と割合 (n=1555)		実施時期	回答数と割合 (n=1555)	
4月	63	4.1%	11月	189	12.2%
5月	260	16.7%	12月	82	5.3%
6月	290	18.7%	1月	8	0.5%
7月	179	11.5%	2月	6	0.4%
8月	40	2.6%	3月	0	0.0%
9月	173	11.1%	授業と重ならない	32	2.1%
10月	233	15.0%	計	1555	100.0%

(複数回答あり)

(5) 実習校の種類

質問文：

実習校にはどのような種類がありますか。当てはまるものすべてを選択してください。

<結果の概要>

教育委員会との協力による実習校は2割～4割（幼稚園は2割以下）、実習生の出身校は3割前後（幼稚園は2割、特別支援は1割）という回答でした。附属学校園は10数%～2割（栄養教諭を除く）、大学との協力による実習校は2割以下（幼稚園は3割、特別支援は2割強）で、大学教員との個人的な協力による実習校も1割以下の割合で回答がありました。

教育委員会との関係による実習校よりも実習生の出身校の割合が多いのは幼稚園と高等学校での実習です。

図表【1】(5)① 実習校の種類 幼稚園

実習校の種類	回答数とその割合 (n=605)	
附属学校園	124	20.5%
教育委員会との協力による公立校園	81	13.4%
教育委員会との協力による私立校園	17	2.8%
大学との協力による公立校園	78	12.9%
大学との協力による私立校園	104	17.2%
大学教員との個人的な協力による公立校園	21	3.5%
大学教員との個人的な協力による私立校園	35	5.8%
学生の出身校園	114	18.8%
その他	31	5.1%
計	605	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(5)② 実習校の種類 小学校

実習校の種類	回答数とその割合 (n=364)	
附属学校園	48	13.2%
教育委員会との協力による公立校園	113	31.0%
教育委員会との協力による私立校園	12	3.3%
大学との協力による公立校園	43	11.8%
大学との協力による私立校園	14	3.9%
大学教員との個人的な協力による公立校園	16	4.4%
大学教員との個人的な協力による私立校園	6	1.7%
学生の出身校園	98	26.9%
その他	14	3.9%
計	364	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(5)③ 実習校の種類 中学校

実習校の種類	回答数とその割合 (n=731)	
附属学校園	92	12.6%
教育委員会との協力による公立校園	194	26.5%
教育委員会との協力による私立校園	16	2.2%
大学との協力による公立校園	64	8.8%
大学との協力による私立校園	48	6.6%
大学教員との個人的な協力による公立校園	43	5.9%
大学教員との個人的な協力による私立校園	25	3.4%
学生の出身校園	225	30.8%
その他	24	3.3%
計	731	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(5)④ 実習校の種類 高等学校

実習校の種類	回答数とその割合 (n=740)	
附属学校園	90	12.2%
教育委員会との協力による公立校園	153	20.7%
教育委員会との協力による私立校園	15	2.0%
大学との協力による公立校園	76	10.3%
大学との協力による私立校園	57	7.7%
大学教員との個人的な協力による公立校園	51	6.9%
大学教員との個人的な協力による私立校園	29	3.9%
学生の出身校園	244	33.0%
その他	25	3.4%
計	740	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(5)⑤ 実習校の種類 特別支援

実習校の種類	回答数とその割合 (n=139)	
附属学校園	23	16.6%
教育委員会との協力による公立校園	41	29.5%
教育委員会との協力による私立校園	6	4.3%
大学との協力による公立校園	28	20.1%
大学との協力による私立校園	4	2.9%
大学教員との個人的な協力による公立校園	6	4.3%
大学教員との個人的な協力による私立校園	2	1.4%
学生の出身校園	13	9.4%
その他	16	11.5%
計	139	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(5)⑥ 実習校の種類 養護教諭

実習校の種類	回答数とその割合 (n=167)	
附属学校園	18	10.8%
教育委員会との協力による公立校園	48	28.7%
教育委員会との協力による私立校園	6	3.6%
大学との協力による公立校園	20	12.0%
大学との協力による私立校園	9	5.4%
大学教員との個人的な協力による公立校園	12	7.2%
大学教員との個人的な協力による私立校園	4	2.4%
学生の出身校園	45	27.0%
その他	5	3.0%
計	167	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(5)⑦ 実習校の種類 栄養教諭

実習校の種類	回答数とその割合 (n=168)	
附属学校園	7	4.2%
教育委員会との協力による公立校園	59	35.1%
教育委員会との協力による私立校園	7	4.2%
大学との協力による公立校園	22	13.1%
大学との協力による私立校園	7	4.2%
大学教員との個人的な協力による公立校園	10	6.0%
大学教員との個人的な協力による私立校園	4	2.4%
学生の出身校園	47	28.0%
その他	5	3.0%
計	168	100.0%

(複数回答あり)

(6) 学校体験活動の実施

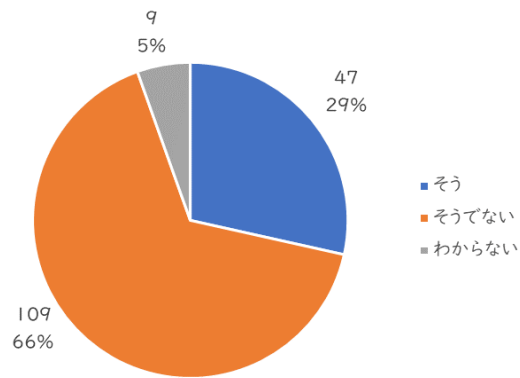
質問文：

学校体験活動を教育実習に含めていないし単位化もしていないが実施している

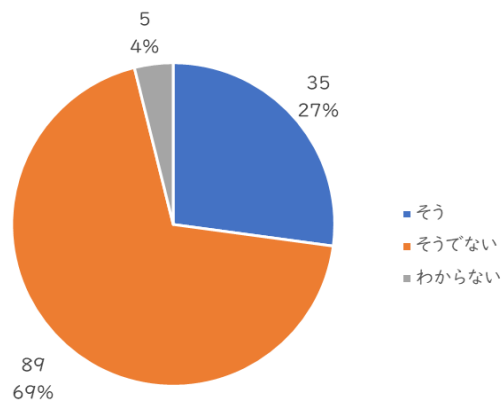
[選択肢] そう・そうでない・わからない

<結果の概要>

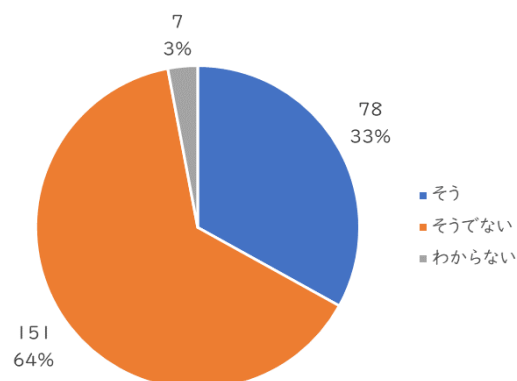
学校体験活動を実施している(ただし、教育実習に位置付けたり、単位化していない)のは、実習校種にかかわらず3割前後で、逆に、6~7割が実施していませんでした。



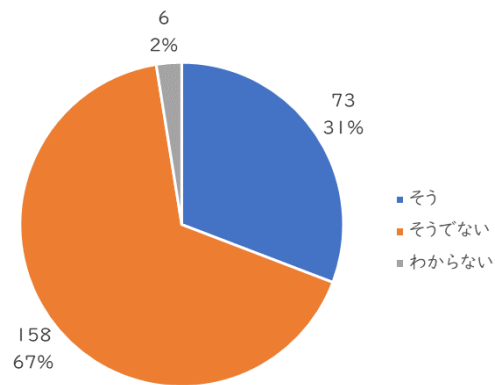
図表【1】(6)① 学校体験活動の実施 幼稚園



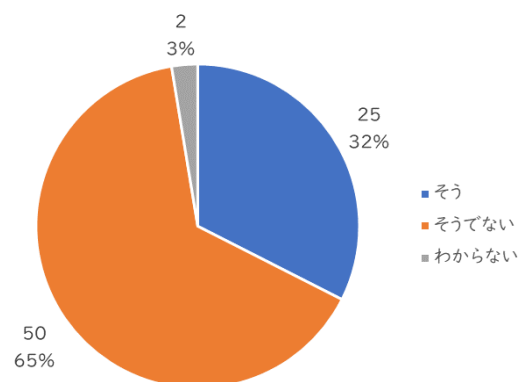
図表【1】(6)② 学校体験活動の実施 小学校



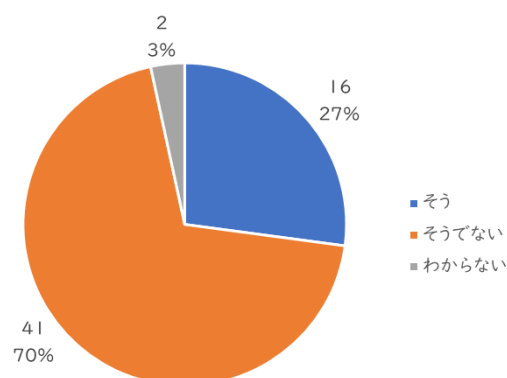
図表【1】(6)③ 学校体験活動の実施 中学校



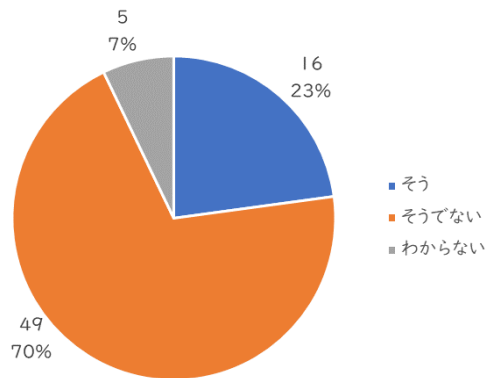
図表【1】(6)④ 学校体験活動の実施 高等学校



図表【1】(6)⑤ 学校体験活動の実施 特別支援



図表【1】(6)⑥ 学校体験活動の実施 養護教諭



図表【1】(6)⑦ 学校体験活動の実施 栄養教諭

(7) 学校体験活動の教育実習への位置づけ

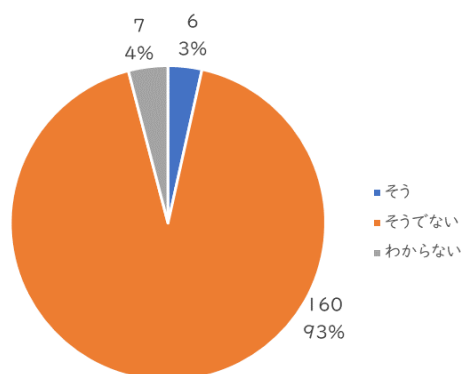
質問文：

教育課程上、学校体験活動を教育実習に含めることができることを定めている。

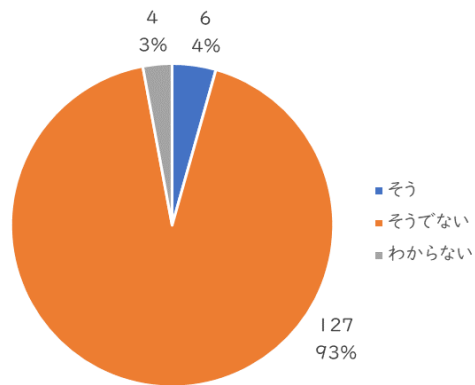
[選択肢] そう ・ そうでない ・ わからない

<結果の概要>

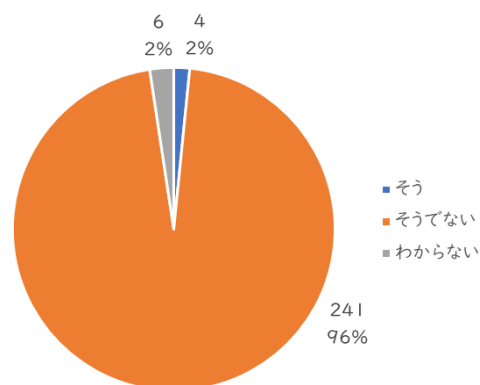
学校体験活動を教育実習に含めることを定めているという回答は5%に満たず、ほとんどありませんでした。



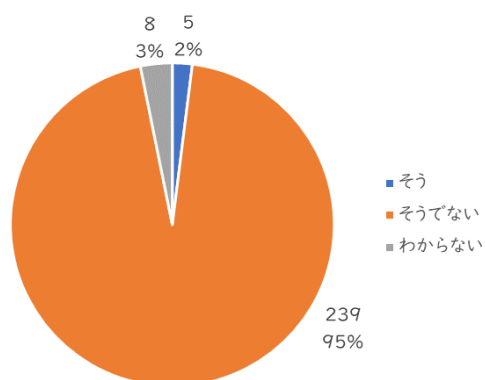
図表【1】(7)① 学校体験活動の教育実習としての位置づけ 幼稚園



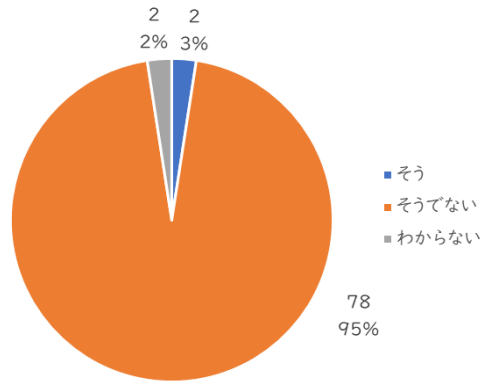
図表【1】(7)② 学校体験活動の教育実習としての位置づけ 小学校



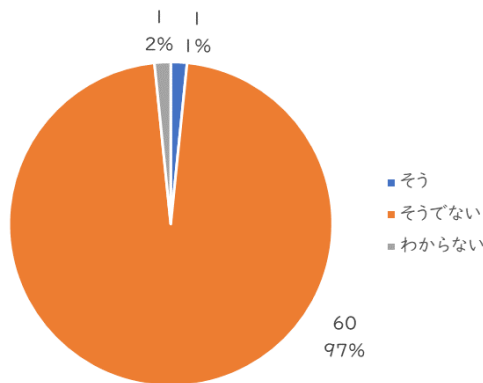
図表【1】(7)③ 学校体験活動の教育実習としての位置づけ 中学校



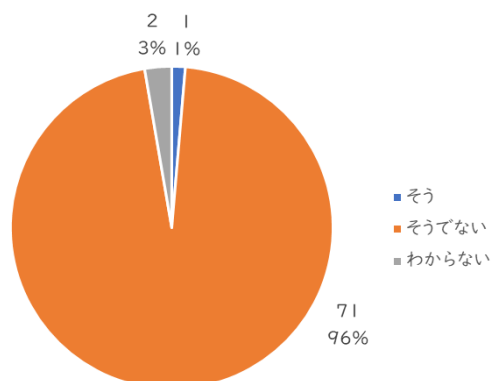
図表【1】(7)④ 学校体験活動の教育実習としての位置づけ 高等学校



図表【1】(7)⑤ 学校体験活動の教育実習としての位置づけ 特別支援



図表【1】(7)⑥ 学校体験活動の教育実習としての位置づけ 養護教諭



図表【1】(7)⑦ 学校体験活動の教育実習としての位置づけ 栄養教諭

(8) 教育実習における学校体験活動の日数

質問文：

（教育課程上、学校体験活動を教育実習に含めることができることを定めている場合）

教育実習に含める学校体験活動は何日と定めていますか。

<結果の概要>

回答数は少数ですが、学校体験活動の日数は1日（以上）から20日と幅広く、また活動を日数ではなく時間数でカウントしている回答もありました。

図表【1】(8)① 教育実習における学校体験活動の日数 幼稚園

日数など	回答数と割合 (n=7)	
16時間(2日)	1	14.3%
3日	2	28.6%
30時間以上	1	14.3%
5日	1	14.3%
8日	1	14.3%
10日	1	14.3%
計	7	100.0%

図表【1】(8)② 教育実習における学校体験活動の日数 小学校

日数など	回答数と割合 (n=9)	
1日以上	1	11.1%
16時間(2日)	1	11.1%
3日	2	22.2%
30時間以上	1	11.1%
5日	1	11.1%
10日	1	11.1%
10日～15日	1	11.1%
20日	1	11.1%
計	9	100.0%

図表【1】(8)③ 教育実習における学校体験活動の日数 中学校

日数など	回答数と割合 (n=5)	
1日以上	1	20.0%
3日	1	20.0%
30時間以上	1	20.0%
5日	1	20.0%
20日	1	20.0%
計	5	100.0%

図表【1】(8)④ 教育実習における学校体験活動の日数 高等学校

日数など	回答数と割合 (n=6)	
1日	1	16.7%
1日以上	1	16.7%
3日	1	16.7%
30時間以上	1	16.7%
14日	1	16.7%
20日	1	16.7%
計	6	100.0%

図表【1】(8)⑤ 教育実習における学校体験活動の日数 特別支援

日数など	回答数と割合 (n=2)	
3日	1	50.0%
7日	1	50.0%
計	2	100.0%

図表【1】(8)⑥ 教育実習における学校体験活動の日数 養護教諭

日数など	回答数と割合 (n=2)	
2日	1	50.0%
3日	1	50.0%
計	2	100.0%

図表【1】(8)⑦ 教育実習における学校体験活動の日数 栄養教諭

日数など	回答数と割合 (n=2)	
21時間程度	1	50.0%
10日間	1	50.0%
計	2	100.0%

(9) 令和4年度の学校体験活動の実績

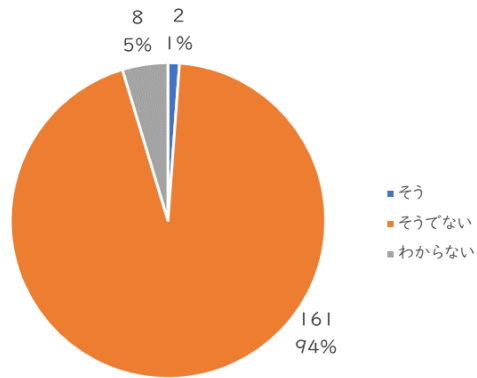
質問文：

令和4年度の実績として、学校体験活動を教育実習に含めて実施した。

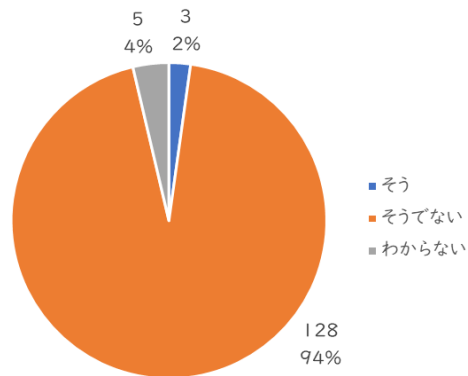
[選択肢] そう・そうでない・わからない

<結果の概要>

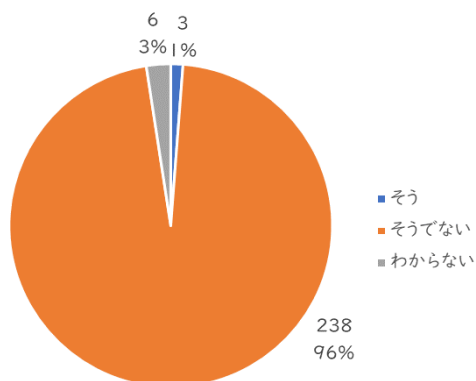
令和4年度の学校体験活動の実績は、各校園種とも1～2%と、ほとんどありませんでした。



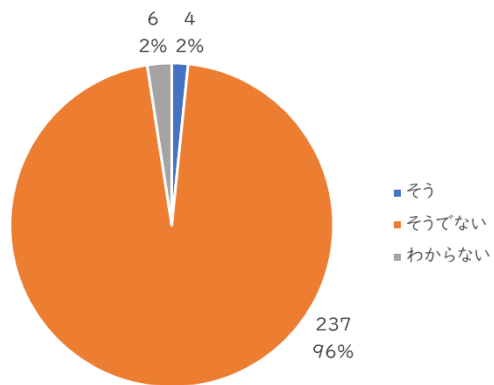
図表【1】(9)① 令和4年度の実績 幼稚園



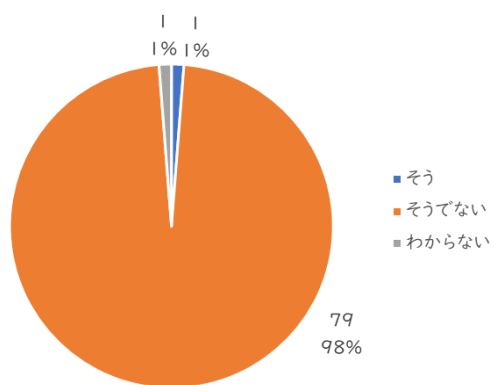
図表【1】(9)② 令和4年度の実績 小学校



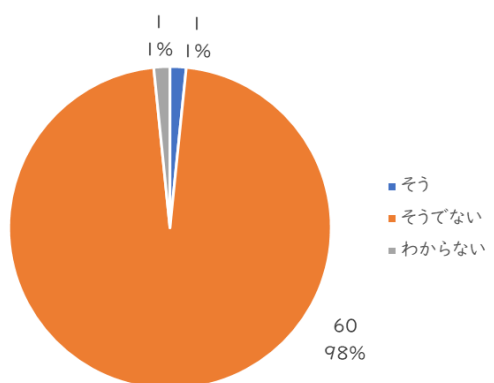
図表【1】(9)③ 令和4年度の実績 中学校



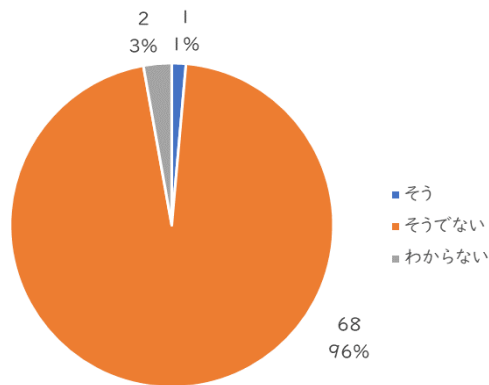
図表【1】(9)④ 令和4年度の実績 高等学校



図表【1】(9)⑤ 令和4年度の実績 特別支援



図表【1】(9)⑥ 令和4年度の実績 養護教諭



図表【1】(9)⑦ 令和4年度の実績 栄養教諭

(10) 令和4年度の学校体験活動の日数

質問文：

(令和4年度の実績として、学校体験活動を教育実習に含めて実施した場合)
令和4年度実績において、教育実習に含めた学校体験活動は何日でしたか。

<結果の概要>

回答数そのものは少数ですが、その中で、1～2日から20日と、活動日数に幅がありました。

図表【1】(10)① 令和4年度の学校体験活動の日数 幼稚園

日数など	回答数と割合 (n=4)	
1日以上	1	25.0%
3日	1	25.0%
5日	1	25.0%
8日	1	25.0%
計	4	100.0%

図表【1】(10)② 令和4年度の学校体験活動の日数 小学校

日数など	回答数と割合 (n=3)	
1日～2日	1	33.3%
5日	1	33.3%
20日	1	33.3%
計	3	100.0%

図表【1】(10)③ 令和4年度の学校体験活動の日数 中学校

日数など	回答数と割合 (n=5)	
1日～2日	1	20.0%
30時間以上	1	20.0%
5日	1	20.0%
20日	1	20.0%
その他	1	20.0%
計	5	100.0%

図表【1】(10)④ 令和4年度の学校体験活動の日数 高等学校

日数など	回答数と割合 (n=6)	
1日	1	16.7%
1日～2日	1	16.7%
30時間以上	1	16.7%
14日	1	16.7%
20日	1	16.7%
その他	1	16.7%
計	6	100.0%

図表【1】(10)⑤ 令和4年度の学校体験活動の日数 特別支援

日数など	回答数と割合 (n=1)	
7日	1	100.0%
計	1	100.0%

図表【1】(10)⑥ 令和4年度の学校体験活動の日数 養護教諭

日数など	回答数と割合 (n=1)	
2日	1	100.0%
計	1	100.0%

図表【1】(10)⑦ 令和4年度の学校体験活動の日数 栄養教諭

日数など	回答数と割合 (n=2)	
21時数程度	1	50.0%
10日	1	50.0%
計	2	100.0%

(11) 学校体験活動の単位化

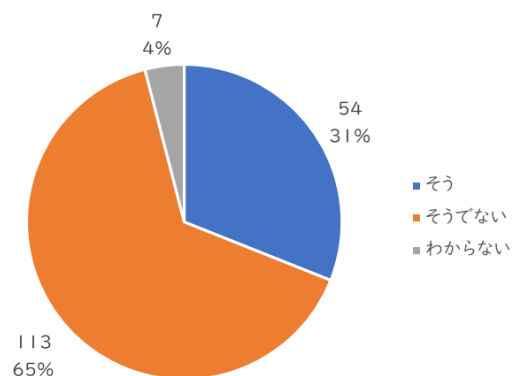
質問文:

学校体験活動を教育実習に含めていないが、単位化して実施している

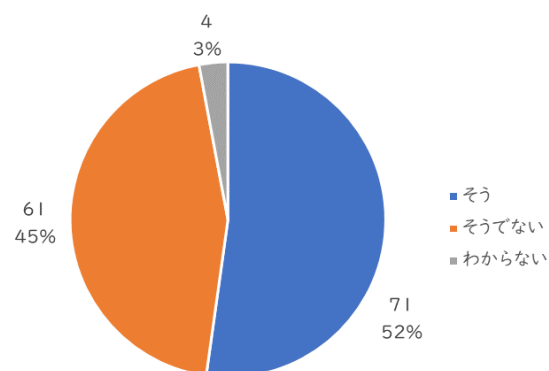
[選択肢] そう・そうでない・わからない

<結果の概要>

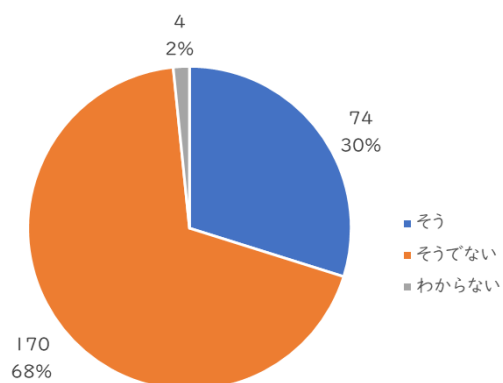
小学校では半数程度が学校体験活動を単位化しており,逆に栄養教諭は10%未満と少ない回答でした。それ以外の実習校種では3割前後が単位化して学校体験活動を実施しているという回答でした。



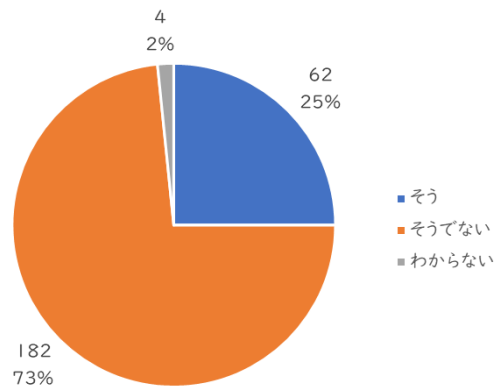
図表【1】(11)① 学校体験活動の単位化 幼稚園



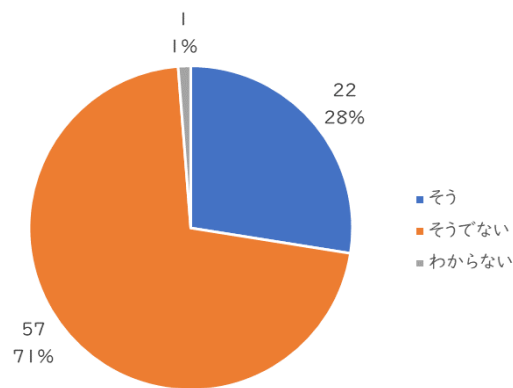
図表【1】(11)② 学校体験活動の単位化 小学校



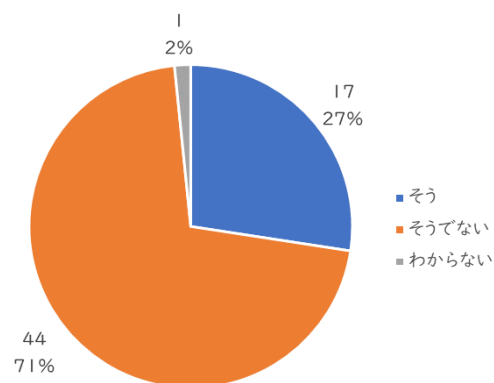
図表【1】(11)③ 学校体験活動の単位化 中学校



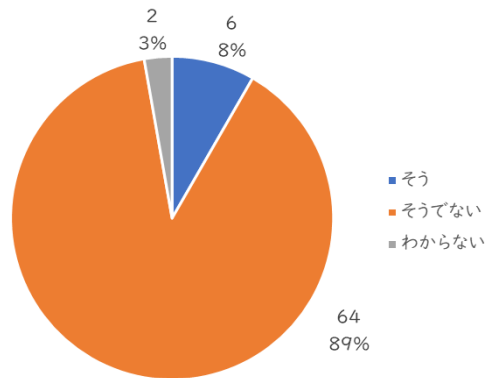
図表【1】(11)④ 学校体験活動の単位化 高等学校



図表【1】(11)⑤ 学校体験活動の単位化 特別支援



図表【1】(11)⑥ 学校体験活動の単位化 養護教諭



図表【1】(11)⑦ 学校体験活動の単位化 栄養教諭

(12) 学校体験活動の単位数と実施時期

質問文:

(学校体験活動を教育実習に含めていないが、単位化して実施している場合)
単位数と実施時期を記入してください。

<結果の概要>

全体を通して、学校体験活動の単位数は1, 2単位が多く、また実施時期は、2年生あるいは1年間もしくは1年以上の一定期間や年間のうちの特定期間の回答が比較的多くありました。

図表【1】(12)① 学校体験活動の単位数と実施時期 幼稚園

単位数	回答数と割合 (n=54)		実施時期	回答数と割合 (n=64)	
1	21	38.9%	1回生前期	9	14.1%
2	20	37.0%	1回生後期	5	7.8%
3	2	3.7%	1回生通年	3	4.7%
4	4	7.4%	2回生前期	6	9.4%
~4	1	1.9%	2回生後期	5	7.8%
5	1	1.9%	2回生通年	12	18.8%
その他 ^{※1}	5	9.3%	3回生前期	1	1.6%
計	54	100.0%	3回生後期	0	0.0%
			3回生通年	5	7.8%
			4回生前期	1	1.6%
			4回生後期	1	1.6%
			4回生通年	2	3.1%
			その他 ^{※2}	14	21.9%
			計	64	100.0%

※¹ 授業科目の一部、単位化された学校ボランティアや教育実習の事前・事後指導などに学校体験活動を位置づけているなど。

※² 1年間もしくは1年以上の一定期間、年間のうちの特定期間など。

図表【1】(12)② 学校体験活動の単位数と実施時期 小学校

単位数	回答数と割合 (n=66)		実施時期	回答数と割合 (n=81)	
1	22	33.3%	1回生前期	9	11.1%
1または2	1	1.5%	1回生後期	3	3.7%
2	31	47.0%	1回生通年	3	3.7%
3	2	3.0%	2回生前期	11	13.6%
4	6	9.1%	2回生後期	6	7.4%
～4	1	1.5%	2回生通年	17	21.0%
その他 ^{※1}	3	4.6%	3回生前期	3	3.7%
計	66	100.0%	3回生後期	1	1.2%
			3回生通年	5	6.2%
			4回生前期	2	2.5%
			4回生後期	2	2.5%
			4回生通年	1	1.2%
			その他 ^{※2}	18	22.2%
			計	81	100.0%

※¹ 授業科目の一部、単位化された学校ボランティアや教育実習の事前・事後指導などに学校体験活動を位置づけているなど。

※² 1年間もしくは1年以上の一定期間、年間のうちの特定期間など。

図表【1】(12)③ 学校体験活動の単位数と実施時期 中学校

単位数	回答数と割合 (n=70)		実施時期	回答数と割合 (n=83)	
1	26	37.1%	1回生前期	5	6.0%
1または2	2	2.9%	1回生後期	3	3.6%
2	23	32.9%	1回生通年	1	1.2%
3	4	5.7%	2回生前期	9	10.8%
4	7	10.0%	2回生後期	6	7.2%
～4	1	1.4%	2回生通年	14	16.9%
8	1	1.4%	3回生前期	2	2.4%
その他 ^{※1}	6	8.6%	3回生後期	2	2.4%
計	70	100.0%	3回生通年	5	6.0%
			4回生前期	1	1.2%
			4回生後期	3	3.6%
			4回生通年	2	2.4%
			その他 ^{※2}	30	36.1%
			計	83	100.0%

※¹ 授業科目の一部、単位化された学校ボランティアや教育実習の事前・事後指導などに学校体験活動を位置づけているなど。

※² 1年間もしくは1年以上の一定期間、年間のうちの特定期間など。

図表【1】(12)④ 学校体験活動の単位数と実施時期 高等学校

単位数	回答数と割合 (n=63)		実施時期	回答数と割合 (n=72)	
1	26	41.3%	1回生前期	2	2.8%
1または2	3	4.8%	1回生後期	3	4.2%
2	21	33.3%	1回生通年	2	2.8%
～2	1	1.6%	2回生前期	5	6.9%
2～	1	1.6%	2回生後期	6	8.3%
3	3	4.8%	2回生通年	11	15.3%
4	5	7.9%	3回生前期	3	4.2%
～4	1	1.6%	3回生後期	1	1.4%
8	2	3.2%	3回生通年	4	5.6%
計	63	100.0%	4回生前期	1	1.4%
			4回生後期	3	4.2%
			4回生通年	1	1.4%
			その他※	30	41.7%
			計	72	100.0%

※1年間もしくは1年以上の一定期間、年間のうちの特定期間など。

図表【1】(12)⑤ 学校体験活動の単位数と実施時期 特別支援

単位数	回答数と割合 (n=24)		実施時期	回答数と割合 (n=29)	
1	8	33.3%	1回生前期	2	6.9%
1または2	1	4.2%	1回生後期	1	3.5%
2	11	45.8%	1回生通年	0	0.0%
4	2	8.3%	2回生前期	3	10.3%
～4	1	4.2%	2回生後期	3	10.3%
4～	1	4.2%	2回生通年	5	17.2%
計	24	100.0%	3回生前期	1	3.5%
			3回生後期	0	0.0%
			3回生通年	2	6.9%
			4回生前期	0	0.0%
			4回生後期	1	3.5%
			4回生通年	1	3.5%
			その他※	10	34.5%
			計	29	100.0%

※1年間もしくは1年以上の一定期間、年間のうちの特定期間など。

図表【1】(12)⑥ 学校体験活動の単位数と実施時期 養護教諭

単位数	回答数と割合 (n=17)		実施時期	回答数と割合 (n=24)	
1	7	41.2%	1回生前期	3	12.5%
2	6	35.3%	1回生後期	2	8.3%
3	2	11.8%	1回生通年	2	8.3%
4	2	11.8%	2回生前期	3	12.5%
計	17	100.0%	2回生後期	1	4.2%
			2回生通年	3	12.5%
			3回生前期	1	4.2%
			3回生後期	1	4.2%
			3回生通年	0	0.0%
			4回生前期	0	0.0%
			4回生後期	2	8.3%
			4回生通年	0	0.0%
			その他※	6	25.0%
			計	24	100.0%

※1年間もしくは1年以上の一定期間、年間のうちの特定期間など。

図表【1】(12)⑦ 学校体験活動の単位数と実施時期 栄養教諭

単位数	回答数と割合 (n=8)		実施時期	回答数と割合 (n=12)	
1	2	25.0%	1回生前期	2	16.7%
2	3	37.5%	1回生後期	2	16.7%
2～	1	12.5%	1回生通年	0	0.0%
3	1	12.5%	2回生前期	2	16.7%
4	1	12.5%	2回生後期	0	0.0%
計	8	100.0%	2回生通年	1	8.3%
			3回生前期	0	0.0%
			3回生後期	0	0.0%
			3回生通年	0	0.0%
			4回生前期	0	0.0%
			4回生後期	2	16.7%
			4回生通年	1	8.3%
			その他※	2	16.7%
			計	12	100.0%

※学年を問わず。

(13) 事前指導の実施時期

質問文:

大学で教育実習の事前指導をいつ実施していますか。当てはまるものすべてを選択してください。

<結果の概要>

8割から9割の大学が中学校, 高等学校, 特別支援, 養護教諭および栄養教諭の教育実習の事前指導を3年生から4年生で実施していますが, 幼稚園と小学校の実習は短期大学を含んでいるため1年生から3年生にかけて分散しています。幼稚園は2年生と1年生がそれぞれ3割前後, 小学校は3年生が5割程度での実施になっています。

図表【1】(13)① 事前指導の実施時期 幼稚園

実施時期	回答数と割合 (n=553)		実施時期	回答数と割合 (n=553)	
1年生・4～6月	28	5.1%	3年生・4～6月	73	13.2%
1年生・7～9月	34	6.2%	3年生・7～9月	64	11.6%
1年生・10～12月	31	5.6%	3年生・10～12月	34	6.2%
1年生・1～3月	25	4.5%	3年生・1～3月	23	4.2%
2年生・4～6月	62	11.2%	4年生・4～6月	59	10.7%
2年生・7～9月	43	7.8%	4年生・7～9月	24	4.3%
2年生・10～12月	29	5.2%	4年生・10～12月	1	0.2%
2年生・1～3月	23	4.2%	4年生・1～3月	0	0.0%
			計	553	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)② 事前指導の実施時期 幼稚園・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=179)		実施時期	回答数と割合 (n=179)	
1年生・4～6月	24	13.4%	2年生・4～6月	44	24.6%
1年生・7～9月	29	16.2%	2年生・7～9月	23	12.9%
1年生・10～12月	28	15.6%	2年生・10～12月	10	5.6%
1年生・1～3月	20	11.2%	2年生・1～3月	1	0.6%
			計	179	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)③ 事前指導の実施時期 幼稚園・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=374)		実施時期	回答数と割合 (n=374)	
1年生・4～6月	4	1.1%	3年生・4～6月	73	19.5%
1年生・7～9月	5	1.3%	3年生・7～9月	64	17.1%
1年生・10～12月	3	0.8%	3年生・10～12月	34	9.1%
1年生・1～3月	5	1.3%	3年生・1～3月	23	6.2%
2年生・4～6月	18	4.8%	4年生・4～6月	59	15.8%
2年生・7～9月	20	5.4%	4年生・7～9月	24	6.4%
2年生・10～12月	19	5.1%	4年生・10～12月	1	0.3%
2年生・1～3月	22	5.9%	4年生・1～3月	0	0.0%
			計	374	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)④ 事前指導の実施時期 小学校

実施時期	回答数と割合 (n=388)		実施時期	回答数と割合 (n=388)	
1年生・4～6月	4	1.0%	3年生・4～6月	85	22.2%
1年生・7～9月	6	1.6%	3年生・7～9月	74	19.1%
1年生・10～12月	8	2.1%	3年生・10～12月	22	5.7%
1年生・1～3月	7	1.8%	3年生・1～3月	23	5.9%
2年生・4～6月	17	4.4%	4年生・4～6月	54	13.9%
2年生・7～9月	20	5.2%	4年生・7～9月	25	6.4%
2年生・10～12月	14	3.6%	4年生・10～12月	7	1.8%
2年生・1～3月	20	5.2%	4年生・1～3月	1	0.3%
			計	387	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑤ 事前指導の実施時期 小学校・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=20)		実施時期	回答数と割合 (n=20)	
1年生・4～6月	2	10.0%	2年生・4～6月	4	20.0%
1年生・7～9月	2	10.0%	2年生・7～9月	2	10.0%
1年生・10～12月	5	25.0%	2年生・10～12月	0	0.0%
1年生・1～3月	5	25.0%	2年生・1～3月	0	0.0%
			計	20	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑥ 事前指導の実施時期 小学校・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=367)		実施時期	回答数と割合 (n=367)	
1年生・4～6月	2	0.5%	3年生・4～6月	85	23.2%
1年生・7～9月	4	1.1%	3年生・7～9月	74	20.2%
1年生・10～12月	3	0.8%	3年生・10～12月	22	6.0%
1年生・1～3月	2	0.5%	3年生・1～3月	23	6.3%
2年生・4～6月	13	3.5%	4年生・4～6月	54	14.7%
2年生・7～9月	18	4.9%	4年生・7～9月	25	6.8%
2年生・10～12月	14	3.8%	4年生・10～12月	7	1.9%
2年生・1～3月	20	5.5%	4年生・1～3月	1	0.3%
			計	367	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑦ 事前指導の実施時期 中学校

実施時期	回答数割合 (n=654)		実施時期	回答数割合 (n=654)	
1年生・4～6月	6	0.9%	3年生・4～6月	66	10.1%
1年生・7～9月	6	0.9%	3年生・7～9月	70	10.7%
1年生・10～12月	8	1.2%	3年生・10～12月	88	13.5%
1年生・1～3月	7	1.1%	3年生・1～3月	93	14.2%
2年生・4～6月	13	2.0%	4年生・4～6月	187	28.6%
2年生・7～9月	14	2.1%	4年生・7～9月	49	7.5%
2年生・10～12月	11	1.7%	4年生・10～12月	12	1.8%
2年生・1～3月	21	3.2%	4年生・1～3月	3	0.5%
			計	654	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑧ 事前指導の実施時期 中学校・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=21)		実施時期	回答数と割合 (n=21)	
1年生・4～6月	2	1.1%	2年生・4～6月	6	3.4%
1年生・7～9月	2	1.1%	2年生・7～9月	4	2.2%
1年生・10～12月	3	1.7%	2年生・10～12月	0	0.0%
1年生・1～3月	4	2.2%	2年生・1～3月	0	0.0%
			計	21	11.7%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑨ 事前指導の実施時期 中学校・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=633)		実施時期	回答数と割合 (n=633)	
1年生・4～6月	4	0.6%	3年生・4～6月	66	10.4%
1年生・7～9月	4	0.6%	3年生・7～9月	70	11.1%
1年生・10～12月	5	0.8%	3年生・10～12月	88	13.9%
1年生・1～3月	3	0.5%	3年生・1～3月	93	14.7%
2年生・4～6月	7	1.1%	4年生・4～6月	187	29.5%
2年生・7～9月	10	1.6%	4年生・7～9月	49	7.7%
2年生・10～12月	11	1.7%	4年生・10～12月	12	1.9%
2年生・1～3月	21	3.3%	4年生・1～3月	3	0.5%
			計	633	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑩ 事前指導の実施時期 高等学校・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=626)		実施時期	回答数と割合 (n=626)	
1年生・4～6月	3	0.5%	3年生・4～6月	51	8.2%
1年生・7～9月	1	0.2%	3年生・7～9月	59	9.4%
1年生・10～12月	4	0.6%	3年生・10～12月	95	15.2%
1年生・1～3月	4	0.6%	3年生・1～3月	97	15.5%
2年生・4～6月	8	1.3%	4年生・4～6月	202	32.3%
2年生・7～9月	7	1.1%	4年生・7～9月	52	8.3%
2年生・10～12月	8	1.3%	4年生・10～12月	11	1.8%
2年生・1～3月	21	3.4%	4年生・1～3月	3	0.5%
			計	626	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑪ 事前指導の実施時期 特別支援・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=195)		実施時期	回答数と割合 (n=195)	
1年生・4～6月	2	1.0%	3年生・4～6月	19	9.7%
1年生・7～9月	2	1.0%	3年生・7～9月	15	7.7%
1年生・10～12月	1	0.5%	3年生・10～12月	17	8.7%
1年生・1～3月	1	0.5%	3年生・1～3月	14	7.2%
2年生・4～6月	3	1.5%	4年生・4～6月	48	24.6%
2年生・7～9月	8	4.1%	4年生・7～9月	38	19.5%
2年生・10～12月	6	3.1%	4年生・10～12月	11	5.6%
2年生・1～3月	9	4.6%	4年生・1～3月	1	0.5%
			計	195	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑫ 事前指導の実施時期 養護教諭

実施時期	回答数と割合 (n=144)		実施時期	回答数と割合 (n=144)	
1年生・4～6月	5	3.5%	3年生・4～6月	17	11.8%
1年生・7～9月	4	2.8%	3年生・7～9月	15	10.4%
1年生・10～12月	2	1.4%	3年生・10～12月	12	8.3%
1年生・1～3月	3	2.1%	3年生・1～3月	16	11.1%
2年生・4～6月	3	2.1%	4年生・4～6月	38	26.4%
2年生・7～9月	1	0.7%	4年生・7～9月	13	9.0%
2年生・10～12月	4	2.8%	4年生・10～12月	5	3.5%
2年生・1～3月	5	3.5%	4年生・1～3月	1	0.7%
			計	144	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑬ 事前指導の実施時期 養護教諭・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=9)		実施時期	回答数と割合 (n=9)	
1年生・4～6月	2	22.2%	2年生・4～6月	2	22.2%
1年生・7～9月	1	11.1%	2年生・7～9月	0	0.0%
1年生・10～12月	2	22.2%	2年生・10～12月	0	0.0%
1年生・1～3月	2	22.2%	2年生・1～3月	0	0.0%
			計	9	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑭ 事前指導の実施時期 養護教諭・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=135)		実施時期	回答数と割合 (n=135)	
1年生・4～6月	3	2.2%	3年生・4～6月	17	12.6%
1年生・7～9月	3	2.2%	3年生・7～9月	15	11.1%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	12	8.9%
1年生・1～3月	1	0.7%	3年生・1～3月	16	11.9%
2年生・4～6月	1	0.7%	4年生・4～6月	38	28.2%
2年生・7～9月	1	0.7%	4年生・7～9月	13	9.6%
2年生・10～12月	4	3.0%	4年生・10～12月	5	3.7%
2年生・1～3月	5	3.7%	4年生・1～3月	1	0.7%
			計	135	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑮ 事前指導の実施時期 栄養教諭

実施時期	回答数と割合 (n=177)		実施時期	回答数と割合 (n=177)	
1年生・4～6月	1	0.6%	3年生・4～6月	18	10.2%
1年生・7～9月	1	0.6%	3年生・7～9月	14	7.9%
1年生・10～12月	2	1.1%	3年生・10～12月	24	13.6%
1年生・1～3月	2	1.1%	3年生・1～3月	20	11.3%
2年生・4～6月	12	6.8%	4年生・4～6月	46	26.0%
2年生・7～9月	11	6.2%	4年生・7～9月	12	6.8%
2年生・10～12月	3	1.7%	4年生・10～12月	5	2.8%
2年生・1～3月	4	2.3%	4年生・1～3月	2	1.1%
			計	177	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑯ 事前指導の実施時期 栄養教諭・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=28)		実施時期	回答数と割合 (n=28)	
1年生・4～6月	1	0.6%	2年生・4～6月	10	5.6%
1年生・7～9月	1	0.6%	2年生・7～9月	9	5.0%
1年生・10～12月	2	1.1%	2年生・10～12月	3	1.7%
1年生・1～3月	2	1.1%	2年生・1～3月	0	0.0%
			計	28	15.7%

(複数回答あり)

図表【1】(13)⑰ 事前指導の実施時期 栄養教諭・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=149)		実施時期	回答数と割合 (n=149)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	18	12.1%
1年生・7～9月	0	0.0%	3年生・7～9月	14	9.4%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	24	16.1%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	20	13.4%
2年生・4～6月	2	1.3%	4年生・4～6月	46	30.9%
2年生・7～9月	2	1.3%	4年生・7～9月	12	8.1%
2年生・10～12月	0	0.0%	4年生・10～12月	5	3.4%
2年生・1～3月	4	2.7%	4年生・1～3月	2	1.3%
			計	149	100.0%

(複数回答あり)

(14) 事前指導の実施回数

質問文:

大学で教育実習の事前指導をどれくらい実施していますか。1回=90分間と換算してください。

<結果の概要>

すべての免許種において、6割前後から7割以上の大学が、8回以上の事前指導を実施しています。教育実習の事前・事後指導1単位の半分以上を事前指導に当てていると考えられます。

図表【1】(14) 事前指導の実施回数

実習種別	未実施	1回未満	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上	計
幼稚園	回答数	2	0	5	2	4	3	4	11	11	143
	%	1.1%	0.0%	2.7%	1.1%	2.2%	1.6%	2.2%	6.0%	6.0%	77.3%
小学校	回答数	2	0	2	0	0	9	4	7	11	107
	%	1.4%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	6.3%	2.8%	4.9%	7.8%	75.4%
中学校	回答数	0	0	3	3	8	15	12	26	28	164
	%	0.0%	0.0%	1.2%	1.2%	3.1%	5.8%	4.6%	10.0%	10.8%	63.3%
高等学校	回答数	1	0	4	6	10	15	14	26	28	157
	%	0.4%	0.0%	1.5%	2.3%	3.8%	5.8%	5.4%	10.0%	10.7%	60.2%
特別支援	回答数	4	0	1	2	6	7	1	9	8	48
	%	4.7%	0.0%	1.2%	2.3%	7.0%	8.1%	1.2%	10.5%	9.3%	55.8%
養護教諭	回答数	1	0	4	0	1	2	4	3	6	47
	%	1.5%	0.0%	5.9%	0.0%	1.5%	2.9%	5.9%	4.4%	8.8%	69.1%
栄養教諭	回答数	2	0	2	3	2	3	1	3	4	58
	%	2.6%	0.0%	2.6%	3.9%	2.6%	3.9%	1.3%	3.9%	5.1%	74.4%

(15)事前指導の内容

質問文:

大学での事前指導の内容について当てはまるものすべてを選択してください。

上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

ハラスメント相談は7割弱、幼児・児童・生徒への性暴力等の防止は6割程度でした。全体を通して、授業科目の中で指導しており、教育実習の事前指導には位置づけていないという記述が複数ありました。

自由記述の中には、実習校の教育目標等の理解、ジェンダー的配慮、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態把握や指導などがありました。

図表【1】(15) 事前指導の内容

内容	回答数と割合 (n=339)	
教育実習の意義や目的	337	99.4%
実習生の心得、マナー、言葉づかい	334	98.5%
教育実習の目標や評価	333	98.2%
服装や髪型、身に付ける物	330	97.4%
欠席や早退、遅刻の連絡、実習時間の管理の方法	323	95.3%
学校の教育活動に参画する意識や意欲づけ	322	95.0%
学習指導案の書き方	318	93.8%
提出物などの提出メ切的遵守	316	93.2%
個人情報への取扱い	308	90.9%
スクールコンプライアンス、人権	294	86.7%
学習指導の基礎的な技術(話し方、板書、学習形態、授業展開、環境構成など)	290	85.6%
幼児・児童・生徒への関わり方やコミュニケーションのとり方	288	85.0%
教材研究のしかた	282	83.2%
授業観察のしかた	277	81.7%
幼児・児童・生徒の観察や実態把握	261	77.0%
模擬授業の実施	255	75.2%
学級担任や教科担任の職務	250	73.8%
SNS活用など実習校の教職員とのコミュニケーションのとり方	248	73.2%
学校における組織や運営体制	245	72.3%
学級経営、生活指導や生徒指導の方法	235	69.3%
ハラスメントの相談体制	224	66.1%
学習指導におけるICT活用	222	65.5%
学校安全	207	61.1%
幼児・児童・生徒への性暴力等の防止	201	59.3%
合理的配慮への対応や支援	190	56.1%
働き方改革など学校の現状	154	45.4%
特別支援学級や通級指導教室の児童・生徒や教育活動の理解	152	44.8%
学校における1人1台端末の活用状況	136	40.1%

(複数回答あり)

図表【1】(15) 事前指導の内容 つづき

＜上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述＞
実習校の教育目標や教育課程など
教育委員会と学校との関係や教育行政
教員の不祥事防止について
ジェンダー的配慮
救急救命
学校保健
学校給食
特別な支援を必要とする児童・生徒の実態把握や指導
実習ノート(日誌や記録簿)の書き方
実習校への電話のかけ方、アポイントメントの取り方

(16) 事前指導の実施方法

質問文:

大学での事前指導はどのような方法でおこなっていますか。当てはまるものすべてを選択してください。
上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

＜結果の概要＞

多くの大学が大学教員による対面での講義や同学年の実習生同士の交流やグループワークを取り入れて事前指導を実施していましたが、大学教員と学生の1対1あるいは少人数での面談や対話、異学年の学生の交流などはそれほど多くありませんでした。

教育委員会や実習校、現職教員など学外の協力を得ている大学も多くありませんでした。

図表【1】(16) 事前指導の実施方法

方法	回答数と割合 (n=339)	
対面での大学教員による講義	331	97.6%
同学年の実習生同士の交流やグループワーク	282	83.2%
大学教員との1対1(もしくは少人数)の対面による面談や対話	148	43.7%
同学年の実習生と前年度の実習生(上学年生)の交流やグループワーク	143	42.2%
同学年の異なる実習校種や免許種の実習生との交流やグループワーク	93	27.4%
大学がおこなっているほかに、実習校が独自に事前指導を主催している	79	23.3%
同学年の実習生と翌年度の実習生(下学年生)の交流やグループワーク	70	20.7%
オンラインやオンデマンドによる大学教員の講義	64	18.9%
事前指導の一部を教育委員会に依頼して、対面の講義を実施している	60	17.7%
事前指導の一部を実習校に依頼して、対面の講義を実施している	57	16.8%
大学教員との1対1(もしくは少人数)のオンラインによる面談や対話	41	12.1%
大学がおこなっているほかに、教育委員会が独自に事前指導を主催している	34	10.0%
事前指導の一部を教育委員会に依頼して、オンラインやオンデマンドで講義を実施している	4	1.2%

(複数回答あり)

図表【1】(16) 事前指導の実施方法 つづき

事前指導の一部を実習校に依頼して、オンラインやオンデマンドで講義を実施している	4	1.2%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
県総合教育センター、協力連携協定を締結している市教育委員会、校長会、現場教員によって組織されている研究会の協力を得ている。		
事前指導を全て附属学校園(実習校)に依頼、実施している。		
実習経験のある大学院生、卒業生の現職教員、若手教員、附属学校の教員、管理職を外部講師に招いている。		
小グループによる指導案の作成を実施している。		
外部講師に教育実習に向かう心構えや、キャリアとしての教職の魅力を話してもらっている。		
〇〇市教育委員会は独自に事前指導をおこなっている。		
外部講師による教科指導、模擬授業の指導をしている。		
実習前後に個別面談を実施し、実習期間中は夜間や休日であっても面談を行える体制を取っている。		
1年生から4年間を通して「教育実習ハンドブック」により学校との関わり方を学んでいる。		
3年次に事前・事後指導を通年で実施する演習科目を開設して、教育実習や教員採用試験に向けて切れ目のない指導を実施している。		

(17) 事後指導の実施時期

質問文:

大学で教育実習の事後指導をいつ実施していますか。当てはまるものすべてを選択してください。

<結果の概要>

短期大学では、幼稚園の実習で1年生後半に3割程度、2年生に半数程度、小学校の実習ではすべて2年生で事後指導を実施しています。

4年制大学の幼稚園および小学校の実習では、3年生で4～5割程度、4年生で4割程度が事後指導を実施していました。中学校、高等学校、栄養教諭の実習では3年生で1～2割、4年生で6～7割程度、特別支援と養護教諭の実習では3年生2～3割、4年生5～6割で事後指導を実施し(複数回答あり)

図表【1】(17)① 事後指導の実施時期 幼稚園

実施時期	回答数と割合 (n=389)		実施時期	回答数と割合 (n=389)	
1年生・4～6月	2	0.5%	3年生・4～6月	6	1.5%
1年生・7～9月	7	1.8%	3年生・7～9月	17	4.4%
1年生・10～12月	22	5.7%	3年生・10～12月	69	18.0%
1年生・1～3月	16	4.1%	3年生・1～3月	28	7.2%
2年生・4～6月	12	3.1%	4年生・4～6月	18	4.6%
2年生・7～9月	30	7.7%	4年生・7～9月	41	10.5%
2年生・10～12月	44	11.3%	4年生・10～12月	46	11.8%
2年生・1～3月	14	3.6%	4年生・1～3月	16	4.1%
			計	388	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)② 事後指導の実施時期 幼稚園・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=117)		実施時期	回答数と割合 (n=117)	
1年生・4～6月	2	1.7%	2年生・4～6月	10	8.6%
1年生・7～9月	6	5.1%	2年生・7～9月	24	20.5%
1年生・10～12月	21	18.0%	2年生・10～12月	31	26.5%
1年生・1～3月	14	12.0%	2年生・1～3月	9	7.7%
			計	117	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)③ 事後指導の実施時期 幼稚園・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=271)		実施時期	回答数と割合 (n=271)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	6	2.2%
1年生・7～9月	1	0.4%	3年生・7～9月	17	6.3%
1年生・10～12月	1	0.4%	3年生・10～12月	69	25.5%
1年生・1～3月	2	0.7%	3年生・1～3月	28	10.3%
2年生・4～6月	2	0.7%	4年生・4～6月	18	6.6%
2年生・7～9月	6	2.2%	4年生・7～9月	41	15.1%
2年生・10～12月	13	4.8%	4年生・10～12月	46	17.0%
2年生・1～3月	5	1.9%	4年生・1～3月	16	5.9%
			計	271	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)④ 事後指導の実施時期 小学校

実施時期	回答数と割合 (n=264)		実施時期	回答数と割合 (n=264)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	6	2.7%
1年生・7～9月	1	0.4%	3年生・7～9月	14	5.3%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	87	33.0%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	27	10.2%
2年生・4～6月	1	0.4%	4年生・4～6月	20	7.6%
2年生・7～9月	4	1.5%	4年生・7～9月	32	12.1%
2年生・10～12月	5	1.9%	4年生・10～12月	45	17.1%
2年生・1～3月	3	1.1%	4年生・1～3月	18	6.8%
			計	263	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑤ 事後指導の実施時期 小学校・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=7)		実施時期	回答数と割合 (n=7)	
1年生・4～6月	0	0.0%	2年生・4～6月	1	14.3%
1年生・7～9月	0	0.0%	2年生・7～9月	3	42.9%
1年生・10～12月	0	0.0%	2年生・10～12月	1	14.3%
1年生・1～3月	0	0.0%	2年生・1～3月	2	28.6%
			計	7	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑥ 事後指導の実施時期 小学校・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=256)		実施時期	回答数と割合 (n=256)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	6	2.3%
1年生・7～9月	1	0.4%	3年生・7～9月	14	5.5%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	87	34.0%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	27	10.6%
2年生・4～6月	0	0.0%	4年生・4～6月	20	7.8%
2年生・7～9月	1	0.4%	4年生・7～9月	32	12.5%
2年生・10～12月	4	1.6%	4年生・10～12月	45	17.6%
2年生・1～3月	1	0.4%	4年生・1～3月	18	7.0%
			計	256	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑦ 事後指導の実施時期 中学校

実施時期	回答数割合 (n=480)		実施時期	回答数割合 (n=480)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	3	0.6%
1年生・7～9月	2	0.4%	3年生・7～9月	16	3.3%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	43	9.0%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	15	3.1%
2年生・4～6月	0	0.0%	4年生・4～6月	48	10.0%
2年生・7～9月	2	0.4%	4年生・7～9月	139	29.0%
2年生・10～12月	3	0.6%	4年生・10～12月	162	33.8%
2年生・1～3月	3	0.6%	4年生・1～3月	44	9.2%
			計	480	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑧ 事後指導の実施時期 中学校・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=8)		実施時期	回答数と割合 (n=8)	
1年生・4～6月	0	0.0%	2年生・4～6月	0	0.0%
1年生・7～9月	1	12.5%	2年生・7～9月	1	12.5%
1年生・10～12月	0	0.0%	2年生・10～12月	3	37.5%
1年生・1～3月	0	0.0%	2年生・1～3月	3	37.5%
			計	8	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑨ 事後指導の実施時期 中学校・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=472)		実施時期	回答数と割合 (n=472)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	3	0.6%
1年生・7～9月	1	0.2%	3年生・7～9月	16	3.4%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	43	9.1%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	15	3.2%
2年生・4～6月	0	0.0%	4年生・4～6月	48	10.2%
2年生・7～9月	1	0.2%	4年生・7～9月	139	29.5%
2年生・10～12月	0	0.0%	4年生・10～12月	162	34.3%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	44	9.3%
			計	472	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑩ 事後指導の実施時期 高等学校・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=476)		実施時期	回答数と割合 (n=476)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	3	0.6%
1年生・7～9月	0	0.0%	3年生・7～9月	15	3.2%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	24	5.0%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	9	1.9%
2年生・4～6月	0	0.0%	4年生・4～6月	51	10.7%
2年生・7～9月	2	0.4%	4年生・7～9月	149	31.3%
2年生・10～12月	0	0.0%	4年生・10～12月	178	37.4%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	45	9.5%
			計	476	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑪ 事後指導の実施時期 特別支援・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=151)		実施時期	回答数と割合 (n=151)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	2	1.3%
1年生・7～9月	1	0.7%	3年生・7～9月	2	1.3%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	21	13.9%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	14	9.3%
2年生・4～6月	0	0.0%	4年生・4～6月	11	7.3%
2年生・7～9月	2	1.3%	4年生・7～9月	29	19.2%
2年生・10～12月	0	0.0%	4年生・10～12月	47	31.1%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	22	14.6%
			計	151	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑫ 事後指導の実施時期 養護教諭

実施時期	回答数と割合 (n=108)		実施時期	回答数と割合 (n=108)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	4	3.7%
1年生・7～9月	1	0.9%	3年生・7～9月	8	7.4%
1年生・10～12月	2	1.9%	3年生・10～12月	13	12.0%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	6	5.6%
2年生・4～6月	1	0.9%	4年生・4～6月	8	7.4%
2年生・7～9月	1	0.9%	4年生・7～9月	27	25.0%
2年生・10～12月	3	2.8%	4年生・10～12月	26	24.1%
2年生・1～3月	3	2.8%	4年生・1～3月	5	4.6%
			計	108	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑬ 事後指導の実施時期 養護教諭・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=8)		実施時期	回答数と割合 (n=8)	
1年生・4～6月	0	0.0%	2年生・4～6月	1	12.5%
1年生・7～9月	0	0.0%	2年生・7～9月	1	12.5%
1年生・10～12月	0	0.0%	2年生・10～12月	3	37.5%
1年生・1～3月	0	0.0%	2年生・1～3月	3	37.5%
			計	8	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)④ 事後指導の実施時期 養護教諭・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=100)		実施時期	回答数と割合 (n=100)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	4	4.0%
1年生・7～9月	1	1.0%	3年生・7～9月	8	8.0%
1年生・10～12月	2	2.0%	3年生・10～12月	13	13.0%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	6	6.0%
2年生・4～6月	0	0.0%	4年生・4～6月	8	8.0%
2年生・7～9月	0	0.0%	4年生・7～9月	27	27.0%
2年生・10～12月	0	0.0%	4年生・10～12月	26	26.0%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	5	5.0%
			計	100	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑤ 事後指導の実施時期 栄養教諭

実施時期	回答数と割合 (n=115)		実施時期	回答数と割合 (n=115)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	1	0.9%
1年生・7～9月	0	0.0%	3年生・7～9月	2	1.7%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	5	4.4%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	5	4.4%
2年生・4～6月	0	0.0%	4年生・4～6月	5	4.4%
2年生・7～9月	4	3.5%	4年生・7～9月	33	28.7%
2年生・10～12月	9	7.8%	4年生・10～12月	40	34.8%
2年生・1～3月	5	4.4%	4年生・1～3月	6	5.2%
			計	115	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑥ 事後指導の実施時期 栄養教諭・短期大学

実施時期	回答数と割合 (n=16)		実施時期	回答数と割合 (n=16)	
1年生・4～6月	0	0.0%	2年生・4～6月	0	0.0%
1年生・7～9月	0	0.0%	2年生・7～9月	3	18.8%
1年生・10～12月	0	0.0%	2年生・10～12月	8	50.0%
1年生・1～3月	0	0.0%	2年生・1～3月	5	31.3%
			計	16	100.0%

(複数回答あり)

図表【1】(17)⑦ 事後指導の実施時期 栄養教諭・4年制大学

実施時期	回答数と割合 (n=99)		実施時期	回答数と割合 (n=99)	
1年生・4～6月	0	0.0%	3年生・4～6月	1	1.0%
1年生・7～9月	0	0.0%	3年生・7～9月	2	2.0%
1年生・10～12月	0	0.0%	3年生・10～12月	5	5.1%
1年生・1～3月	0	0.0%	3年生・1～3月	5	5.1%
2年生・4～6月	0	0.0%	4年生・4～6月	5	5.1%
2年生・7～9月	1	1.0%	4年生・7～9月	33	33.3%
2年生・10～12月	1	1.0%	4年生・10～12月	40	40.4%
2年生・1～3月	0	0.0%	4年生・1～3月	6	6.1%
			計	99	100.0%

(複数回答あり)

(18) 事後指導の実施回数

質問文:

大学で教育実習の事後指導をどれくらい実施していますか。1回=90分間と換算してください。

<結果の概要>

すべての実習種別において、8割前後が、15回（事前・事後指導1コマ分）の半分以下（1回～7回）を事後指導に充てていました。半分以上（8回以上）を事後指導に充てているのは1～2割でした。

図表【1】(18) 事後指導の実施回数

実習種別		未実施	1回未満	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回以上	計
幼稚園	回答数	5	1	18	36	28	18	26	9	11	35	187
	%	2.7%	0.5%	9.6%	19.3%	15.0%	9.6%	13.9%	4.8%	5.9%	18.7%	100.0%
小学校	回答数	2	1	24	33	13	14	18	7	5	25	142
	%	1.4%	0.7%	16.9%	23.2%	9.2%	9.9%	12.7%	4.9%	3.5%	17.6%	100.0%
中学校	回答数	1	1	52	52	44	24	26	7	11	41	259
	%	0.4%	0.4%	20.1%	20.1%	17.0%	9.3%	10.0%	2.7%	4.3%	15.8%	100.0%
高等学校	回答数	3	1	53	52	44	22	24	9	11	41	260
	%	1.2%	0.4%	20.4%	20.0%	16.9%	8.5%	9.2%	3.5%	4.2%	15.8%	100.0%
特別支援	回答数	5	0	15	19	13	8	8	4	3	11	86
	%	5.8%	0.0%	17.4%	22.1%	15.1%	9.3%	9.3%	4.7%	3.5%	12.8%	100.0%
養護教諭	回答数	3	0	11	13	9	8	10	2	3	10	69
	%	4.4%	0.0%	15.9%	18.8%	13.0%	11.6%	14.5%	2.9%	4.4%	14.5%	100.0%
栄養教諭	回答数	2	1	16	15	13	7	10	0	1	14	79
	%	2.5%	1.3%	20.3%	19.0%	16.5%	8.9%	12.7%	0.0%	1.3%	17.7%	100.0%

(19) 事後指導の内容

質問文:

大学での事後指導の内容について当てはまるものすべてを選択してください。

上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

教育実習の目的や目標、意義、評価、今後の学修課題、生活指導や生徒指導、教科指導、子どもへの関わりなどが、事後指導で比較的多く取り上げられている内容でした。

図表【1】(19) 事後指導の内容

事後指導の内容	回答数とその割合	
教育実習の目標や評価	259	76.4%
幼児・児童・生徒への関わり方やコミュニケーションのとり方	243	71.7%
学習指導の基礎的な技術(話し方、板書、学習形態、授業展開、環境構成など)	229	67.6%
免許取得までの学修課題	228	67.3%
教育実習の意義や目的	228	67.3%
学校の教育活動に参画する意識や意欲づけ	226	66.7%
教材研究のしかた	218	64.3%
学級担任や教科担任の職務	213	62.8%
学級経営、生活指導や生徒指導の方法	212	62.5%
幼児・児童・生徒の観察や実態把握	211	62.2%
学習指導案の書き方	204	60.2%
提出物などの提出メ次の遵守	176	51.9%
学校における組織や運営体制	174	51.3%
個人情報の取扱い	169	49.9%
授業観察のしかた	162	47.8%
学習指導におけるICT活用	158	46.6%
実習生の心得、マナー、言葉づかい	152	44.8%
スクールコンプライアンス、人権	140	41.3%
合理的配慮への対応や支援	134	39.5%
学校安全	132	38.9%
働き方改革など学校の現状	128	37.8%
特別支援学級や通級指導教室の児童・生徒や教育活動の理解	117	34.5%
SNS活用など実習校の教職員とのコミュニケーションのとり方	117	34.5%
欠席や早退、遅刻の連絡、実習時間の管理の方法	116	34.2%
服装や髪型、身に付ける物	114	33.6%
模擬授業の実施	114	33.6%
ハラスメントの相談体制	111	32.7%
学校におけるＩＴ／ＩＣＴ端末の活用状況	107	31.6%
幼児・児童・生徒への性暴力等の防止	88	26.0%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
報告会や体験発表会等を開催し、実習について報告や交流、後輩へのアドバイスなどをおこなう。		
ポートフォリオやレポートの作成。		
実習全体、授業や実践のふりかえり、課題と成果の検証。		
免許状の申請方法などの指導。		
教職実践演習などでも事後指導をおこなっている。		
「幼児・児童・生徒への性暴力等の防止」は教職実践演習で取り扱っている。		
特別支援学級や通級指導教室等への訪問実習を学校インターンシップで10回以上おこなう。		
宗教科教員の養成のため、キリスト教学校の使命や学校礼拝など実習校の特徴を考えさせる。		
実習生の研究授業についての指導、授業研究会における授業実践と教育実習全体にかかる総括的指導。		
実習後も附属園にボランティアや観察に行くことが出来る。		
現職教員から教職の魅力を聞き、教職への意識、意欲づけをおこなう。		
県内の複数の大学と、関係教育委員会・校長代表との会議を持ち、実習指導に生かしている。		
校務分掌、学校組織、カリキュラムなどを再度学び直す。		

(複数回答あり)

(20) 事後指導の実施方法

質問文:

大学での事後指導はどのような方法でおこなっていますか。当てはまるものすべてを選択してください。
上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

対面での大学教員による講義や実習生同士の交流が多く、少人数での面談、異なる学年や免許種、実習校種の実習生の交流、オンラインやオンデマンドの活用による事後指導はそれほど多くありませんでした。

図表【1】(20) 事後指導の実施方法

事後指導の方法	回答数とその割合	
対面での大学教員による講義	296	87.3%
同学年の実習生同士の交流やグループワーク	284	83.8%
大学教員との1対1(もしくは少人数)の対面による面談や対話	144	42.5%
同学年の実習生と翌年度の実習生(下学年生)の交流やグループワーク	125	36.9%
同学年の異なる実習校種や免許種の実習生との交流やグループワーク	99	29.2%
同学年の実習生と前年度の実習生(上学年生)の交流やグループワーク	58	17.1%
オンラインやオンデマンドによる大学教員の講義	45	13.3%
大学教員との1対1(もしくは少人数)のオンラインによる面談や対話	36	10.6%
事後指導の一部を教育委員会に依頼して、対面の講義を実施している	25	7.4%
事後指導の一部を実習校に依頼して、対面の講義を実施している	12	3.5%
大学がおこなっているほかに、実習校が独自に事後指導を主催している	9	2.7%
事後指導の一部を教育委員会に依頼して、オンラインやオンデマンドで講義を実施している	4	1.2%
大学がおこなっているほかに、教育委員会が独自に事後指導を主催している	3	0.9%
事後指導の一部を実習校に依頼して、オンラインやオンデマンドで講義を実施している	1	0.3%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
現職教員や附属学校教員を講師に招いて講義や講演をおこなう。		
教職実践演習において実質的に教育実習の事後指導をおこなっている。		
実習報告会などを開催し、実習生による報告と全体討論をおこなう。		
教育実習日誌を講評する。		
ふりかえりのレポート、教育実習終了報告書を作成する。		
事後指導を授業科目として開講している。		
教職実践演習でも実習をふりかえり、ICT教育の状況など特定のテーマで実習の経験の共有や事例研究、個別面談による自己省察を行なっている。		

(複数回答あり)

(21) 教育実習の目標の設定

質問文:

実習の目標をどのように設定していますか。上記以外にありましたら記入してください。
また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

多くの大学が教育実習の目標を実習校に周知していました。近隣自治体の教員育成指標を参考にして教育実習の目標を設定している大学は3分の1程度でした。

図表【1】(21) 教育実習の目標の設定

教育実習の目標の設定	回答数と割合 (n=339)	
大学が実習の目標を設定し、実習校に周知している	244	72.0%
実習の目標はディプロマポリシーに基づいている	237	69.9%
実習の目標は近隣自治体の教員育成指標を参考になっている	117	34.5%
大学が実習の目標を設定し、教育委員会に周知している	67	19.8%
大学と実習校が協議して実習の目標を設定している	26	7.7%
大学では実習の目標は設定していない	14	4.1%
大学と教育委員会が協議して実習の目標を設定している	12	3.5%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
横浜市内の中学校での教育実習の場合、横浜市の「教育実習システムガイド」をもとに学生面談・事前指導を通じて、実習までに身に付けるべき素養を共有している。		
学生が教育実習担当教員と協議して設定。		
実習の目標は実習校の教育目標に基づいている。		
幼稚園・小学校課程はディプロマポリシーに基づいている。		
教職課程全体のPDCA、特にPに、学校現場・教員の声を反映できる仕組みづくりを検討中。		

(複数回答あり)

(22) 教育実習の活動内容の設定

質問文:

実習の活動内容をどのように設定していますか。上記以外にありましたら記入してください。

また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

多くの大学で、教育実習の活動内容と目標を対応付けて実習生に提示していますが、活動内容を実習校や教育委員会に提示している大学はそれほど多くありませんでした。

図表【1】(22) 教育実習の活動内容の設定

教育実習の活動内容の設定	回答数と割合 (n=339)	
実習の活動内容と目標を対応づけて実習生に提示している	253	74.6%
大学が活動内容を設定し、実習校に周知している	199	58.7%
実習の活動内容と目標を対応づけて実習校に提示している	191	56.3%
大学と実習校が協議して活動内容を設定している	95	28.0%
大学では活動内容の目安や計画等は設定していない	54	15.9%
大学が活動内容を設定し、教育委員会に周知している	50	14.8%
実習の活動内容と目標を対応づけて教育委員会に提示している	41	12.1%
大学と教育委員会が協議して活動内容を設定している	17	5.0%

図表【1】(22) 教育実習の活動内容の設定 つづき

<上記以外, 貴学の特徴や好事例など自由記述>
実習のてびきを電子化し、教育委員会、実習校、学生に配付、周知。
実習校が掲げる目標を取り入れている。
学生がおこなう授業回数の下限等の依頼。
実習校と協議会を開催し、目標内容の周知と具体的な活動内容、計画の協議。
教育委員会や学校の代表者と連絡会を定期的を実施し、実習運営に関して意見交換を行う。
教職課程全体のPDCA、特にPIに、学校現場・教員の声を反映できる仕組みづくりを検討中。

(複数回答あり)

(23) 評価表の作成

質問文:

教育実習の評価表の様式はどこが作成していますか。上記以外にありましたら記入してください。
また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

ほとんどの大学で教育実習の評価表を作成していますが、地区の私立大学教職課程研究連絡協議会や教育委員会が作成しているところがあります。

図表【1】(23) 教育実習の評価表の作成

教育実習の評価表の作成	回答数と割合 (n=339)	
大学	316	93.2%
教育委員会	78	23.0%
実習校	21	6.2%
大学と実習校が協議して作成	17	5.0%
大学と教育委員会が協議して作成	9	2.7%
大学と教育委員会と実習校が協議して作成	5	1.5%
<上記以外, 貴学の特徴や好事例など自由記述>		
実習校より評価表についてのコメントをもらい、それを検討したこともある。		
実習校によっては指定の様式があるので、そちらを優先することがある。		
実習先の自治体によっては、地区内の教職課程協議会で協議して作成。		
一部の教育委員会においては教育委員会が作成した様式を使用している。		
横浜市立中学校のみ教育委員会指定の様式を使用している。		
京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会作成の統一様式を使用。		
近隣大学との教職課程協議会で統一様式を作成している。		
北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会が評価票を作成。		

(複数回答あり)

(24) 評価方法

質問文:

教育実習をどのように評価していますか。上記以外にありましたら記入してください。
また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

多くが実習の記録や実習生の行動観察などを根拠にして教育実習を評価していますが、ルーブリックを活用したり、大学と実習校が協議している大学は多くありませんでした。

図表【1】(24) 教育実習の評価方法

教育実習の評価方法	回答数と割合 (n=339)	
大学では、実習校の評価を参考にして評価を付けている	306	90.3%
実習ノートや実習日誌、レポート等の書きぶりを根拠にしている	284	83.8%
実習校の指導教員が実習生の行動観察をしてそれを根拠にしている	203	59.9%
実習校の評価は実習指導教員が評価している	180	53.1%
研究授業のでき具合を根拠にしている	159	46.9%
実習校の評価は実習校で協議して評価している	147	43.4%
実習校の評価は管理職が評価している	94	27.7%
ルーブリックを設定して評価をしている	82	24.2%
大学では、実習校の評価を大学の評価にしている	65	19.2%
過去の実習指導の経験を参考にして相対評価をしている	27	8.0%
実習生の意見を評価に反映させている	25	7.4%
他の実習生の様子を参考にして相対評価をしている	22	6.5%
根拠にするものは定めていない	20	5.9%
実習校の管理職、指導教員、大学の指導教員が評価について協議している	17	5.0%
実習校の指導教員と大学の指導教員が評価について協議している	15	4.4%
実習校の管理職と大学の指導教員が評価について協議している	10	2.9%
教育委員会が評価に関与している	4	1.2%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
実習の観点別目標の内容・レベルについて再構成し、基準を明示している		
3年生の実習では実習校の管理職・教員と大学教員が評価について協議している。		
教育実習校の評価を尊重した上で大学の指導教員が実習校の評価とは異なる成績を付ける場合もある。		
実習校の指導教員による評価、事前事後指導への取組状況(レポート、グループワーク、模擬授業の評価等)により評価している。		
実習校を訪問・指導した大学教員のレポートを参考にしている。		
附属校はルーブリックを作成しているが、公立校はルーブリックを作成していない。		
実習校の評価をもとに、大学の担当部会が決められている。		
評価基準を実習校に示している。実習校の評価をそのまま大学の評価とすることがほとんどであり、最終的な評価は大学が責任を負っている。ただし、実習校の評価に疑問等がある場合は実習校と協議して評価を検討するケースもあった。		
基本的には実習校から出された個々の実習生の評価を軸にしているが、当該の実習生からの報告や本学実習指導教員の授業参観の様子、他の実習生の実習校側からの評価などを参考に、最終的に本学で評価を出している。また、実習校側から実習中及び実習後に当該実習生の状況について何か連絡・相談があった場合、その内容も加味して最終的な本学の評価を出している。		

(複数回答あり)

(25) 教育実習の活動内容

質問文:

教育実習において、実習生はどのような活動をしていますか。学校体験活動を教育実習に位置付けて実施している場合は学校体験活動は除いて回答してください。学校体験活動については次にお尋ねします。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

選択肢に示した実習活動の多くが実施されていましたが、特別支援学級や通級指導教室での活動についての回答はそれほど多くありませんでした。これは、実習校種によることが考えられます。

図表【1】(25) 教育実習の活動内容

教育実習における実習活動	回答数と割合 (n=339)	
実習日誌や実習ノートなどの記録作成	339	100.0%
授業の実践	337	99.4%
実習活動の省察・ふりかえり	337	99.4%
授業の観察および記録	333	98.2%
教材研究	333	98.2%
授業づくり(授業の構想、学習指導案の作成を含む)	329	97.1%
幼児・児童・生徒の観察および記録	322	95.0%
幼児・児童・生徒との関わりと実態把握	322	95.0%
授業以外の教育活動の観察・記録	321	94.7%
実習指導教員の実施する授業の補助・支援	306	90.3%
実習指導教員との研究協議	299	88.2%
実習指導教員の実施する授業以外の校務の補助・支援	265	78.2%
大学の指導教員との研究協議	254	74.9%
実習校全体の校務の補助・支援	251	74.0%
部活動の補助・支援	221	65.2%
特別支援学級や通級指導教室の児童・生徒との関わり	151	44.5%
特別支援学級や通級指導教室の教員の補助・支援	118	34.8%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
支援学級や通級指導教室での実習は、実際には実習を行った学校と実習生のあいだで行うかどうかを決めている。		

(複数回答あり)

(26) 教育実習に位置付いた学校体験活動の活動内容

質問文:

貴学が学校体験活動を教育実習に位置付けて実施している場合、学校体験活動ではどのような活動をしていますか。当てはまるものすべてを選んでください。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

教育実習に位置付いた学校体験活動の内容について回答が多かったのは、幼児・児童・生徒の観察と記録、関わりや実態把握、授業やその他の教育活動の観察と記録ですが、いずれも1割前後でした。

図表【1】(26) 教育実習に位置付いた学校体験活動の内容

教育実習に位置付いた学校体験活動の内容	回答数と割合 (n=339)	
幼児・児童・生徒の観察および記録	44	13.0%
幼児・児童・生徒との関わりと実態把握	36	10.6%
授業の観察および記録	39	11.5%
授業以外の教育活動の観察・記録	29	8.6%
実習指導教員の実施する授業の補助・支援	28	8.3%
実習指導教員の授業以外の校務の補助・支援	26	7.7%
実習校全体の校務の補助・支援	24	7.1%
部活動の補助・支援	16	4.7%
特別支援学級や通級指導教室の児童・生徒との関わり	16	4.7%
特別支援学級や通級指導教室の教員の補助・支援	16	4.7%
実習校が休業日におこなう活動の補助・支援	9	2.7%
授業づくり(授業の構想、学習指導案の作成を含む)	18	5.3%
教材研究	20	5.9%
授業の実践	14	4.1%
実習指導教員との研究協議	15	4.4%
大学の指導教員との研究協議	14	4.1%
実習活動の省察・ふりかえり	35	10.3%
実習日誌や実習ノートなどの記録作成	32	9.4%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
他校種の見学		

(複数回答あり)

(27) 実習生の退勤時刻の管理

質問文:

実習期間中の実習生の退勤時刻をどのように管理していますか。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

退勤時刻の記録について、実習生の記録と実習校の記録を合わせると7割以上の回答がありました。退勤時刻の目安を設定したり、退勤時刻を確認することについての回答はあまり多くありませんでした。

図表【1】(27) 実習生の退勤時刻の管理

実習生の退勤時刻の管理	回答数と割合 (n=339)	
実習生は自分の退勤時刻を記録している	165	48.7%
大学が実習生に退勤時刻の目安等について指導している	141	41.6%
大学は実習終了後、退勤時刻が目安等通りだったかを確認している	139	41.0%
実習校は実習生の退勤時刻を記録している	100	29.5%
実習終了後、大学の指導教員と実習生は、退勤時刻が目安等通りだったか協議している	57	16.8%
大学が退勤時刻目安等を設定して、実習校に周知している	56	16.5%
大学は実習期間中、退勤時刻が目安等通りか確認している	50	14.7%
大学と実習校が退勤時刻の目安等について協議し、設定している	48	14.2%
大学の教育実習実施組織(教育実習実施委員会や教職課程センター等)において、実習生全体の退勤時刻について協議している	40	11.8%
実習終了後、大学と実習校は、退勤時刻が目安等通りだったか協議している	17	5.0%
大学が退勤時刻の目安等を設定して、教育委員会に周知している	11	3.2%
大学と教育委員会が退勤時刻の目安等について協議し、設定している	5	1.5%
実習終了後、大学と教育委員会は、退勤時刻が目安等通りだったか協議している	4	1.2%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
出退勤時間は実習指導教員と協議する。		
近年大阪府、兵庫県などの幼稚園においては適切な出退勤時間となっている。また、困ったことがある場合は訪問担当教員や実習担当教員に相談できるように心がけている。		
1日の出勤の確認はするが、具体的な時刻までは確認していない。		
いくら目安をつくっていても、実際に実習校で教材研究や学習指導案作成がうまくいかなければ、実習生は校内に残って、あるいは帰宅して家で作業をやらざるをえない。		
学校現場における働き方改革への取り組みを鑑み、今後、学内において実習生の退勤時刻について検討する。		
実習校(附属学校園)にて退校時刻を定め、各校で徹底している。		
退勤時間は実習校に委ねているが、実習校では現職教員と同じような退勤時間としている(おおむね18時)。		
他大学で養護教諭の免許取得をする学生から聞いたが、病院での看護実習は時間通り終了するが、教育実習は延長が多く教職には就かないと話していた。今までの教育実習に対する現場の意識変化が必要。		

(複数回答あり)

(28) 実習経費の支払い

質問文:

実習校に実習経費(実習費、謝金、報償費などの名目)を支払っていますか。実習経費とは、実習にかかる実費(給食費、コピー代、資料代等)以外を指します。当てはまるものをすべて選んでください。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

実習経費の支払いのパターンは多様です。大学が支払うケースや実習生が支払うケース、全額の支払いや一部の支払い、折半などまちまちです。また実習校から経費の支払いを求められたことがないという回答もありました。

図表【1】(28) 実習経費の支払い

実習経費の支払い	回答数と割合 (n=339)	
出身校以外の私立の実習校から求めがあった場合、大学が実習経費を支払っている	128	37.8%
実習生の出身校である実習校から求めがあった場合、実習生が実習経費を支払っている	126	37.2%
出身校以外の公立の実習校から求めがあった場合、大学が実習経費を支払っている	125	36.9%

図表【1】(28) 実習経費の支払い つづき

実習経費の支払い	回答数と割合 (n=339)	
出身校以外の私立の実習校から求めがあった場合、実習生が実習経費を支払っている	123	36.3%
出身校以外の公立の実習校から求めがあった場合、実習生が実習経費を支払っている	117	34.5%
大学と教育委員会の間で、実習経費の請求と支払をおこなわない旨合意している	51	15.0%
大学は実習経費を支払わないと教育委員会や実習校に周知している	44	13.0%
大学から教育委員会や実習校に実習経費を請求しないよう依頼している	40	11.8%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
実習経費を求められたケースがない。		
大学から支払う実習費について上限額を定めており、それを超える求めがあった場合は、差額を実習生が負担している。		
実習経費(謝金)の支払いは大学負担と学生負担を折半している。		
主免許取得にかかる教育実習謝金は大学から支払いを行い、副免許取得にかかる教育実習謝金は学生が支払いを行っている。		
各実習については謝礼を実習校に一律に支払うことにして、予算化している。		
教育実習費は大学で12,000円として、実習生に持参させて実習校に渡すように指示しているが受け取る、受け取らないの判断は実習校に委ねている。受け取らない実習校も少なくない。教育実習日誌内に領収書用紙を用意している。		
実習経費の支払いについて、本学では各実習先の謝礼支払いの有無に関わらず、実習参加学生から一律で実習費用を徴収し、その費用の中から謝礼や手土産代をまかなっており、「実習生が」大学に支払った費用を「大学が」実習先に支払っている。		
実習生から徴収する実習費の中から支出している。		
実習費に関しては、実習年度の期初に学生から一律に徴収している。いくつかの教育委員会を経由して実習を行う場合は、実習費を支払うという協定はないが、それ以外で実費支払いを求められるケースもある。		
実習校(私立・公立にかかわらず)から求めがあった場合は1万円をお支払いしている。		
実習校からの求めがない場合は、京都地区の教職を有する大学で組織する協議会で協議された金額に応じて実習生が金額を支払っている。		
求めのあった実習校には大学所定の金額で支払い、所定金額を超えた場合は超過分を学生が負担する。		

(複数回答あり)

(29) 実習生の負担感の把握

質問文:

実習の負担感の把握について当てはまるものすべてを選択してください。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

実習中や終了後に実習生に実習の負担感を確認しているという回答が8割前後ありました。アンケート調査などの方法で把握しているという回答は半数以下でした。

図表【1】(29) 実習の負担感の把握

実習の負担感の把握	回答数と割合 (n=339)	
実習終了後に指導教員が実習生に様子を聞くなどして負担感について把握している	278	82.0%
実習中に指導教員が実習生に様子を聞くなどして負担感について把握している	267	78.8%
カウンセリング等や学生相談に来る実習生の実態から把握している	143	42.2%
実習終了後に実習生にアンケート調査などして負担感について把握している	142	41.9%
実習生の負担感について特に把握していない	52	15.3%
実習終了後に実習生にメンタルヘルスのセルフチェック等を実施している	17	5.0%

図表【1】(29) 実習の負担感の把握 つづき

＜上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述＞
教育実習期間中の土曜日に中間報告会を設定しており、その際に実習生の負担を確認し、必要な場合、実習校と話し合いを持っている。
実習2週目以降、附属小・中学校にて各コースの指導教員が様子を伺い、声かけを行っている。 また、メンタルサポートチームを設けており、実習中に心配なことや気になることがある実習生からの相談への対応を行っている。
実習担当部門が実習中に実習校を複数回訪問し情報共有を行っている
実習終了後、事後指導で実習中にあったことなどに焦点をあててレポートを書かせ、個々の実習生の負担感を把握している。
実習生のメンタルヘルス等に関するフォローは、教育実習担当教員の裁量において行っている。
授業実習の中で、特に負担感が強いと感じられる内容について事前指導で扱っている。

(複数回答あり)

(30) 大学の指導教員の役割

質問文:

大学の指導教員の役割について当てはまるものすべてを選択してください。上記以外にありましたら回答してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

＜結果の概要＞

ほとんどの大学で、指導教員が設定されており、実習生の授業を参観したり、実習校や実習生との連絡や相談に対応していました。

指導教員が実習校の訪問記録を作成したり、学習指導案作成の指導などを行っている大学もありました。

図表【1】(30) 大学の指導教員の役割

大学の指導教員の役割	回答数と割合 (n=339)	
実習中、実習校を訪問して実習生の授業等を参観する	320	94.4%
実習生からの困り事やトラブル等の連絡や相談に対応する	314	92.6%
すべての実習生に指導教員が設定されている	300	88.5%
実習校からの困り事やトラブル等の連絡や相談に対応する	298	87.9%
実習生に事前指導や事前面談をおこなう	295	87.0%
実習生に事後指導や事後面談をおこなう	286	84.4%
実習中、実習生と連絡を取り、実習の様子を確認する	262	77.3%
実習の評価をつける	242	71.4%
実習開始前に実習校を訪問して打ち合わせをおこなう	58	17.1%
実習校と実習の評価について協議する	49	14.5%
実習開始前に実習校を訪問して、実習の目標を説明する	31	9.1%
実習開始前に実習校を訪問して、実習の内容を説明する	31	9.1%
実習開始前に実習校を訪問して、実習の評価方法を説明する	28	8.3%
実習終了後に実習校を訪問して実習のふりかえりをおこなう	27	8.0%
＜上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述＞		
教科の指導案作成等についても、連絡があれば対応している。		
実習中の指導案指導。		

図表【1】(30) 大学の指導教員の役割 つづき

＜上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述＞
各実習校ごとに実習担当教員をおき、その担当者を窓口とし、各コースの指導教員と連絡できる体制を整えている。
個別の実習訪問記録を作成し、学生の様子や実習校からの要望について情報共有する。
実習開始前に実習校と大学の指導教員の連絡会を実施している。
実習校からの求めや配慮を要する実習生がいる場合は、実習開始前に実習校を訪問して対応の説明や協議を行う。

(複数回答あり)

(31) 合理的配慮や支援を必要とする学生への対応

質問文：

教育実習における合理的配慮や支援を必要とする学生への対応について回答してください。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

＜結果の概要＞

合理的配慮や支援を要する実習生へは、7割程度の大学が教育実習実施担当組織で対応していました。障がい学生の修学支援組織との連携は6割弱、相談や申請窓口の設置は半数強でした。実習校との調整や協議は実習指導教員がおこなっている大学が半数強ありました。

配慮や支援の検討や調整などの流れや手順を定めている大学は4割程度、実習後に配慮や支援についてふりかえりをしている大学は4割以下でした。

図表【1】(31) 合理的配慮や支援を必要とする学生への対応

合理的配慮や支援を必要とする学生への対応	回答数と割合 (n=339)	
教育実習実施担当組織(教育実習実施委員会や教職課程センター等)が対応している	241	71.1%
障害学生の修学支援をする組織と連携して対応している	194	57.2%
学生が教育実習における合理的配慮や支援を相談や申請する窓口を設定している	192	56.6%
実習指導教員が実習校と合理的配慮や支援の内容を調整、協議している	186	54.9%
教育実習の実施組織(教育実習実施委員会や教職課程センター等)が実習校と合理的配慮や支援の内容を調整、協議している	147	43.4%
合理的配慮や支援の検討や調整、提供する流れや手順を定めている	136	40.1%
実習終了後、大学の担当組織で合理的配慮や支援についてふりかえりをしている	123	36.3%
実習終了後、大学と実習校とで合理的配慮や支援についてふりかえりをしている	67	19.8%
実習終了後のふりかえりには当該実習生が参加している	65	19.2%
障害学生の教育実習を支援する組織があり、そこが対応している	57	16.8%
障害学生支援の担当部署(者)が実習校と合理的配慮や支援の内容を調整、協議している	57	16.8%
合理的配慮や支援を必要とする実習生の実習を評価する方針や方法を定めている	30	8.8%
合理的配慮や支援を必要とする実習生の実習での活動内容を定めている	27	8.0%
＜上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述＞		
教育実習に特化した組織ではなく、大学生活・学習において困難さのある学生をサポートする全学組織(特別修学サポートルーム)において対応している。		
合理的配慮や支援対応は、教育実習担当部門、大学指導教員、学生相談担当等、必要に応じて複数の関係者が関わっている。		
合理的配慮を要する学生が教育実習に参加する場合は、個々のケースごとに担当教員及び関係職員間で協議し、対応を図っている。		
聴覚障害、視覚障害学生のための大学であり、実習校への支援の必要性や説明は基本的には学生本人が行っている。		

(複数回答あり)

(32) 実習記録の媒体

質問文：

実習日誌や実習ノートなどの記録はどのような形態ですか。当てはまるもの選択してください。

上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

紙媒体で実習の記録を作成させているところがほとんどですが、電子版にしたりLMS(学習管理システム)を活用しているところがあります。電子版への移行に関心を持っていたり検討しているところが半数程度ありますが、実習校のOSやセキュリティ、実習校が個人のデバイスの持ち込みを禁止していたり、実習生がデバイスを持っていないなどの理由が電子版への移行を難しくしているという指摘がありました。

図表【1】(32) 実習の記録の形態

実習の記録の形態	回答数と割合 (n=339)	
紙媒体の日誌やノート等に手書きで記入する	334	98.5%
試行はしていないが、電子版への移行には興味・関心を持っている	179	52.8%
将来的には条件や環境が整備されて電子版に移行していくと考えている	179	52.8%
紙媒体が基本だが、ワード利用などへの移行を検討している	94	27.7%
システムやネットワークの安全性の点から、電子版への移行は積極的に検討していない	74	21.8%
電子版に移行したいが、教育委員会や実習校によってシステムやソフトが異なり対応が困難である	74	21.8%
ワードなどを利用して電子版の日誌やノート等に入力し、実習校には印刷して提出している	65	19.2%
自分のノートパソコンを持っていない学生がいるため、電子版への移行は困難である	65	19.2%
電子版にする必要性やメリットをとくに感じていない	46	13.6%
ワードなどを利用して電子版の日誌やノート等に入力し、実習校にはデータを提出している	22	6.5%
紙媒体が基本だが、LMS利用などへの移行を検討している	21	6.2%
LMS(学習管理システム)を利用して電子版の日誌やノートに入力し、実習校の指導教員とシステム上でデータを共有している	8	2.4%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
Microsoft Teamsで実習録の管理を行っている。		
令和7年度を目処に教育実習日誌の完全電子化を検討しており、令和5年度においては、一部附属学校での教育実習について、教育実習日誌の一部電子化を試行している。提出にあたってはGoogle classroomにおいてドキュメント形式にて対応している。		
今後、wordデータを印刷もしくはデータの形で使用することを検討している。		
配慮の必要な学生においては、実習園と協議しエクセルを利用して、日誌を作成・印刷をして提出している。		
附属園ではドキュメンテーションの作成など日誌の形を工夫している。		
実習日誌は、パソコン入力・手書きのいずれでも可。作成したものは紙媒体により、実習校指導教諭に日々提出し、検印。実習終了後、印刷・製本した日誌を実習校に提出する。		
パソコンの使用については、実習生が実習校との事前打ち合わせの際に確認している。		
公立学校への個人所有のパソコンなどの持ち込みを禁止している自治体は多いと思うが、そのような状況でどのように電子版に移行できるのか、分からない。実習校のパソコンを借りることはできると思うが、実習校にそのようなパソコンがあるのかどうか分からない。		
受入校の現場により、電子版が可能な場合は推奨しているが、受け入れ校のシステムやセキュリティの関係であまり進んでいない。		

図表【1】(32) 実習の記録の形態 つづき

電子媒体での提出の可能な学校と、紙媒体のみの学校があり、それぞれで対応している。電子媒体での提出で、大学と指導教員が同時に情報を共有できる仕組みが望ましい。
視覚障害学生(データ), 聴覚障害学生(紙), 障害特性に応じて運用している。

(複数回答あり)

(33) 教育実習におけるICT活用

質問文:

教育実習におけるICT活用について当てはまるものすべてを選択してください。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

ほとんどが実習前にICT活用について指導していました。実習で実習生がパソコンをどのように活用しているか、実習校でどのような端末やOSを使用しているかなどを把握している回答は多くありませんでした。

図表【1】(33) 教育実習におけるICT活用

教育実習におけるICT活用	回答数と割合 (n=339)	
教科指導等におけるICT活用を実習前に指導している	284	83.8%
実習生は実習校に自分のノートパソコンを持参して使用している	139	41.0%
デジタル教科書の操作方法を実習前に指導している	127	37.5%
デジタル教科書を活用した授業づくりを実習前に指導している	119	35.1%
実習生は実習校が用意したパソコン等を使用している	113	33.3%
学生は実習校で導入されている端末やOSを実習前に操作して練習している	63	18.6%
大学は実習校が使用している端末やOSを把握している	50	14.7%
実習生は実習校ではパソコン等は使用していない	37	10.9%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
実習前に電子黒板等の操作の練習をしている。		
PCの持ち込みは実習校の方針により異なる。		
学生は実習校への自分のパソコンの持ち込みを禁止されている。		
実習校が使用している端末やOSについて、教育学部以外では母校実習が原則であるため全校は把握していない。		
附属園実習では園のパソコンを使用させている。		
むしろ「ICTを活用しない従来どおりの授業」を学生に経験させておく必要がある。		
中学校、高等学校の授業で電子黒板が多用されているため学内の複数の機種を用いて講習会を実施した。		
附属学校においては、実習生が実習時に活用できるよう、タブレット端末を学級に1台整備した。		

(複数回答あり)

(34) 働き方改革を受けて教育実習のあり方の変化

質問文：

学校における働き方改革を受けて、教育実習のあり方をどのように変えていますか。当てはまるものをすべて選択してください。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

働き方改革を受けて、実習校が実習生の退勤時刻を設定したという回答が4割程度、実習日誌等の点検を軽減したが3割程度ありましたが、その他の変化についての回答は少数でした。自由記述では、実習生の授業回数が減っているという回答と逆に増えているという回答の両方がありました。

図表【1】(34) 働き方改革を受けての教育実習のあり方の変化

働き方改革を受けての教育実習のあり方の変化	回答数と割合(n=339)	
実習校が実習生の退勤時刻を設定した	137	40.4%
大学が実習日誌や実習ノートの点検を軽減した	96	28.3%
実習校が実習生の退勤時刻を早めた	55	16.2%
実習校が実習日誌や実習ノートの点検を軽減した	32	9.4%
大学が実習生の退勤時刻を設定した	20	5.9%
大学が実習生のおこなう授業回数を減らした	14	4.1%
実習校が実習生のおこなう授業回数を減らした	14	4.1%
教育委員会が実習日誌や実習ノートの点検を軽減した	10	2.9%
教育委員会が実習校に実習指導の負担軽減を指導した	7	2.1%
大学が大学指導教員と実習校との協議を減らした	6	1.8%
実習校が実習生のおこなう授業回数を増やした	6	1.8%
教育委員会が実習生の退勤時刻を設定した	5	1.5%
実習校が実習にかかる校内の会議を減らした	5	1.5%
大学が実習生の退勤時刻を早めた	4	1.2%
教育委員会が実習生の退勤時刻を早めた	4	1.2%
実習校が大学の指導教員との協議を減らした	4	1.2%
教育委員会が実習生のおこなう授業回数を減らした	2	0.6%
教育委員会が実習にかかる大学との協議を減らした	1	0.3%
大学が実習生のおこなう授業回数を増やした	0	0.0%
教育委員会が実習生のおこなう授業回数を増やした	0	0.0%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
3年次の附属園実習では退勤時刻、実習日誌など事前に協議している。		
以前の授業実践回数を見直し、質の高い授業実践を行うことにより、時間数を削減した。「教育実習実施要綱」及び「教育実習の手引き」に記載し、実習校に周知した。		
各種記録物にかかる押印やコメントの軽減について大学から実習校へ通知をしている。教育実習に係る実習校からの問合せについて、ウェブ上でも受け付けている。		
教育実習は全国で実施しているので実態をすべて把握できる状況にはない。		
実習生の授業実習の回数は、特に公立中学校で「増えている」傾向にあるように思う。		
教育委員会や校長代表者との会議は、zoomなどにより負担軽減を努めている。		
大阪府私立幼稚園連合の幼稚園によっては独自の日誌があり日誌の軽減が行われている。		

(複数回答あり)

(35) 実習校での実習指導のありかた

質問文：

実習校ではどのように実習指導をおこなっていますか。上記以外にありましたら記入してください。
また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

実習指導教員がどのように実習指導をおこなっているかについて、実習生と対面で指導しているという回答は7割ありましたが、それ以外については半数かそれ以下であり、実習校での実習指導について十分把握していない実態が考えられます。

図表【1】(35) 実習校での実習指導のありかた

実習校での実習指導のありかた	回答数と割合 (n=339)	
実習指導教員は勤務時間内に実習生と対面で指導している	240	70.8%
勤務時間内に実習指導教員は実習日誌や実習ノート等の提出物を点検している	177	52.2%
管理職は必要に応じて実習生を指導している	159	46.9%
主幹や主任は必要に応じて実習生を指導している	126	37.2%
勤務時間外に実習指導教員は実習日誌や実習ノート等の提出物を点検している	80	23.6%
教科指導をおこなう実習指導教員と学級指導をおこなう実習指導教員が役割分担をしている	78	23.0%
実習指導教員は勤務時間外に実習生と対面で指導している	70	20.6%
実習指導教員は勤務時間内にメールなどで指導している	64	18.9%
力量のある教員が実習指導を担当している	64	18.9%
教職年数の多い教員が実習指導を担当している	62	18.3%
実習指導教員を中心に、同教科の教諭がチーム体制で実習指導をしている	54	15.9%
実習指導教員を中心に、同学年の教諭がチーム体制で実習指導をしている	53	15.6%
若手教員が実習指導を担当している	45	13.3%
学級や幼児・児童・生徒に直接関わらない内容については管理職が実習生を指導している	44	13.0%
実習指導教員は勤務時間外にメールなどで指導している	40	11.8%
主幹や主任は毎日実習生を指導している	22	6.5%
管理職は毎日実習生を指導している	12	3.5%
実習期間中は実習指導がある分、実習指導教員は他の校務が軽減されている	2	0.6%
実習指導教員は実習終了後に勤務時間が短縮されている	1	0.3%
実習指導教員は実習終了後に他の校務が軽減されている	0	0.0%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
附属園では、管理職やチーム体制で実習生の指導を行っている。		
力量のある教員は生徒対応、そのため課題のある先生が指導をするケースもあり、その場合、学生が対応に困ることがある。		
実習校の実習指導については実習校に一任している。		
実習校での指導内容については言及できる立場にないと考えている。		
実習先での実習指導をご担当されている先生の職務上の負担や時間の割り振りにについては、大学は把握していない。		

(複数回答あり)

(36) 実習指導教員への指導やサポート

質問文：

実習校の実習指導教員への指導やサポートはどのようにおこなわれていますか。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

全体を通して大学が実習校の実習指導教員に指導やサポートをおこなっているという回答の割合は多くありませんでしたが、大学が実習指導の手引きを発行して参考になるようにしているという回答が4割近くありました。

実習指導教員への指導やサポートは、管理職や学年団、教科団など実習校内でおこなっているという回答が1～3割程度ありました。

図表【1】(36) 実習指導教員への指導やサポート

実習指導教員への指導やサポート	回答数と割合 (n=339)	
大学が発行している実習指導の手引きを参考にしている	127	37.5%
困り事やトラブル等が生じた時に、実習校の管理職が実習指導教員に指導している	100	29.5%
困り事やトラブル等が生じた時に、実習校の学年団や教科団が実習指導教員をサポートしている	77	22.7%
実習校の管理職が実習指導教員に実習指導について指導している	53	15.6%
同学年や同教科の教諭がチーム体制で実習指導教員をサポートしている	53	15.6%
教育委員会が発行している実習指導の手引きを参考にしている	23	6.8%
大学が実施している実習指導の教員研修を受講している	9	2.7%
教育委員会が実施している実習指導の教員研修を受講している	3	0.9%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
実習先の実習指導教員へのサポートについては大学は特に提供しておらず、把握していない。		
実習校によるので回答不能。		

(複数回答あり)

(37) 実習受入のメリットややりがいの提供

質問文：

大学では、学校が実習を受入れることのメリットややりがいを提供していますか。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

実習生が実習中に実習校の指導教員の補助や支援をおこなうことや、大学の指導教員が実習校に情報提供するなどによって、学校が実習を受け入れるメリットややりがいを提供しているという回答が半数から6割程度ありました。その他、研究動向の提供や、実習生が学校体験活動によって実習校を補助・支援しているというものもありました。

さらに、実習活動や省察が、実習校にとって省察や学びの機会になっているという回答も2割強ありました。実習校において実習生がボランティア活動をおこなっているという自由記述も複数ありました。

図表【1】(37) 実習受入のメリットややりがいの提供

実習受入のメリットややりがいの提供	回答数と割合 (n=339)	
実習生は実習中、実習指導教員の補助や支援をおこなっている	216	63.7%
大学の指導教員の実習校訪問時に大学での学修や若い世代の特徴などを実習校に情報提供している	174	51.3%
大学の指導教員の実習校訪問時に、研究や実践の動向の情報等を提供している	136	40.1%
実習生は実習前後に学校体験活動をおこない、実習校を補助・支援している	118	34.8%
実習生の省察に大学の指導教員と実習指導教員が加わることで、実習指導教員の省察の機会を作っている	82	24.2%
実習生の実習活動について大学の指導教員と実習校の実習指導教員が協議し、実習指導教員にとっての学びを作っている	78	23.0%
とくにやりがいやメリットを提供していない	67	19.8%
実習生は実習校にICTの活用方法について情報提供している	41	12.1%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
実習生が学校教育活動の補助も行っており、実習校からも好評を得ている。また、若い教師が少ない中、実習生の存在は学校の活性化や子どもたちの成長に寄与するものと評価されている。		
過去に実習生を派遣した中学校・高校で、本学教職課程担当教員が生徒指導・教育相談・学校安全などに関する教職員研修を実施した。		
研究授業をめぐって、学校側と大学教員が議論をおこなう学校もある。		
実習校でのボランティアを積極的に学生に周知している。		
実習先が実習生にとっての就職先の候補の一つとなる。実習生が現場の生徒に対する進路相談の一つの窓口となる。		
実習前に学校体験活動をおこない、実習校を補助・支援している場合もある。		
出身校で実習する場合は実習生に対し後輩である生徒たちへの進路選択、将来選択に向けポジティブなメッセージを伝えるよう指導している。		

(複数回答あり)

(38) 困り事やトラブルへの対応

質問文：

実習生の起こした困り事やトラブルにどのように対応していますか。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

指導教員が実習生に対応しているという回答が8割以上と多く、指導教員が実習校に対応しているあるいは教育実習実施組織が実習校や実習生に対応しているという回答も7割以上ありました。教育委員会への対応は指導教員も教育実習実施組織も4割かそれ以下と多くありませんでした。

図表【1】(38) 困り事やトラブルへの対応

困り事やトラブルへの対応	回答数と割合 (n=339)	
大学の指導教員が主に実習生に対応している	293	86.4%
教育実習実施組織(教育実習実施委員会や教職課程センター等)が主に実習校に対応している	257	75.8%
大学の指導教員が主に実習校に対応している	254	74.9%
教育実習実施組織(教育実習実施委員会や教職課程センター等)が主に実習生に対応している	244	72.0%
教育実習実施組織(教育実習実施委員会や教職課程センター等)が主に教育委員会に対応している	137	40.4%
大学の指導教員が主に教育委員会に対応している	87	25.7%
<上記以外, 貴学の特徴や好事例など自由記述>		
教育実習実施組織は陰で動く形が多い。		
教職課程委員長(副学長)が実習校と対応する。		
教職教育センターが大学の指導教員と協議・役割分担して対応している。		
困難やトラブルの程度により、主に誰が担当するか異なる状況。		
●●市の小学校、中学校については、校長会に報告等を行う。		
主に教職課程主任と学生の所属する学部学科の教員及び教務課で連携して対応している。		
教育実習実施組織・教職員と実習生所属学科の関係教員が、個々の状況に応じて対応している。		

(複数回答あり)

(39) ハラスメント対応の学生周知

質問文:

実習や介護等体験におけるハラスメントへの対応を学生に周知していますか。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

ほとんどの大学が、実習でハラスメント事案があった場合相談するよう周知していました。ハラスメントの相談方法や窓口などの周知は6~7割程度でした。介護等体験でのハラスメント事案については実習よりも低い割合で、相談するよう周知しているが6割程度、相談方法や窓口などの周知は4~5割程度でした。

図表【1】(39) ハラスメント対応の学生周知

ハラスメントへの対応についての周知	回答数と割合 (n=339)	
実習でハラスメント事案があった場合には相談するよう周知している	297	87.6%
実習でハラスメント事案があった場合どのような方法で相談できるか周知している	238	70.2%
実習でのハラスメントを相談する窓口や体制があることを周知している	222	65.5%
実習でのハラスメント事案にどのような人が相談に乗ってくれるか周知している	218	64.3%
介護等体験でハラスメント事案があった場合には相談するよう周知している	216	63.7%
大学生活全般でのハラスメントを相談する窓口等に、実習でのハラスメントも相談するよう周知している	184	54.3%
実習でハラスメント事案があった時の相談のしやすさを周知している	181	53.4%

図表【1】(39) ハラスメント対応の学生周知 つづき

ハラスメントへの対応についての周知	回答数と割合 (n=339)	
介護等体験でハラスメント事案があった場合どのような方法で相談できるか周知している	170	50.1%
介護等体験でのハラスメント事案にどのような人が相談に乗ってくれるか周知している	169	49.9%
介護等体験でのハラスメントを相談する窓口や体制があることを周知している	158	46.6%
介護等体験でハラスメント事案があった場合の相談のしやすさを周知している	139	41.0%
大学生生活全般でのハラスメントを相談する窓口等に、介護等体験でのハラスメントも相談するよう周知している	136	40.1%
人権侵害の窓口等に実習でのハラスメントを相談するよう周知している	123	36.3%
人権侵害の窓口等に介護等体験でのハラスメントを相談するよう周知している	94	27.7%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
ハラスメントに限定せず「何かあったら」学生課に連絡するよう指示している。		
実習に対するメンタルサポートチームにハラスメントに限らず相談できる体制を構築している。ハラスメントに特化した周知は行っていない。		
介護等体験・教育実習ともに本学の教育活動であるので、本学のハラスメント相談窓口で対応している。		
基本的に大学の指導教員が全ての窓口となっている。		
教育実習・介護等体験のハラスメント事案に特化した窓口はないが、学生のあらゆる相談に応じるための「なんでも相談窓口」、ハラスメント相談に対応するハラスメント相談員を配置し、学生の相談に対応している。また、教育実習事前ガイダンスにおいて、ハラスメントに遭った場合には我慢せず申し出るよう周知している（事例によるが、発生した場合は、全学窓口のほか、教員養成学部においては、教育実習委員会委員長等も対応する。）。□		
主に教職課程主任と学生の所属する学部学科の教員及び教務課で連携して対応している。		

(複数回答あり)

(40) ハラスメントへの対応

質問文：

実習生がおこなったり受けたりしたハラスメントにどのように対応していますか。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

実習におけるハラスメントについて、指導教員や教育実習実施組織が実習校や実習生に対応していることが多く、ハラスメント対応組織が対応しているという回答は2割以下と多くありませんでした。人権相談部署による対応はさらに少なく、1割以下でした。

図表【1】(40) ハラスメントへの対応

ハラスメントへの対応	回答数と割合 (n=339)	
大学の指導教員が主に実習生に対応している	262	77.3%
教育実習実施組織(教育実習実施委員会や教職課程センター等)が主に実習校に対応している	243	71.7%
教育実習実施組織(教育実習実施委員会や教職課程センター等)が主に実習生に対応している	234	69.0%
大学の指導教員が主に実習校に対応している	222	65.5%
教育実習実施組織(教育実習実施委員会や教職課程センター等)が主に教育委員会に対応している	140	41.3%
大学の指導教員が主に教育委員会に対応している	78	23.0%

図表【1】(40) ハラスメントへの対応 つづき

実習におけるハラスメント対応組織が主に実習生に対応している	66	19.5%
実習におけるハラスメント対応組織が主に実習校に対応している	60	17.7%
大学の人権相談部署が主に実習生に対応している	33	9.7%
実習におけるハラスメント対応組織が主に教育委員会に対応している	30	8.8%
大学の人権相談部署が主に実習校に対応している	28	8.3%
大学の人権相談部署が主に教育委員会に対応している	12	3.5%
＜上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述＞		
最終的には大学の責任者（教職課程委員会委員長）が実習校の責任者と話す		
主に教職課程主任と学生の所属する学部学科の教員及び教務課で連携して対応している。		
主に実習校、実習生への対応であり、教育委員会への対応は行ったことがない。		
本学の実習の担当者が、相手の実習校と連絡をとり、直接話をしに行っている。		
まずは共通教育機構資格課程部門及び事務局教務チームを窓口として、先方への対応を行う。		
教育実習及び介護等体験に担当者がおり、担当者が窓口となり、対応に当たっている。		
ハラスメントの内容や重さ等によって、対応する窓口、組織が変わってくる。		

(複数回答あり)

(41) 臨時休業の場合の教育実習の実施方針

質問文：

気象警報等により実習校が臨時休業になる可能性がある場合の教育実習の実施について方針や定め等がありますか。上記以外にありましたら記入してください。また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

＜結果の概要＞

気象警報等で実習校が臨時休業になる可能性がある場合の教育実習の実施について、その方針や定め等は多様であり、大学がそれらを設定しているという回答は多くありませんでした。

多かった回答は、実習校と実習生の間で実習実施について連絡したり確認したりするものでした。

図表【1】(41) 臨時休業の場合の教育実習の実施方針

臨時休業の場合の教育実習の実施方針	回答数と割合 (n=339)	
実習生が実習校に実習実施について確認することになっている	287	84.7%
実習校から実習生に実習実施について連絡が入ることになっている	264	77.9%
実習校が方針や定め等を設定し、大学はそれに従うことになっている	230	67.8%
臨時休業の場合でも実習生が出勤すれば当該日は実習日になる	206	60.8%
臨時休業の場合、実習生が出勤しなければ当該日は実習日にはならない	188	55.5%
臨時休業になり児童・生徒が登校しない場合でも当該日は実習日になる	149	44.0%
大学が設定している方針や定め等を実習生に指導している	130	38.3%
大学が実習校に実習実施について確認することになっている	92	27.1%
大学の規程等に基づいて、大学が方針や定め等を設定している	79	23.3%
教育委員会が方針や定め等を設定し、大学はそれに従うことになっている	69	20.4%
臨時休業になり児童・生徒が登校しない場合、当該日は実習日にはならない	67	19.8%
実習校と協議して、大学が方針や定め等を設定している	61	18.0%

図表【1】(41) 臨時休業の場合の教育実習の実施方針 つづき

大学が設定している方針や定め等を教育委員会と実習校に周知している	47	13.9%
大学が教育委員会に実習実施について確認することになっている	13	3.8%
教育委員会から大学に実習実施について連絡が入ることになっている	11	3.2%
教育委員会と協議して、大学が方針や定め等を設定している	8	2.4%
<上記以外、貴学の特徴や好事例など自由記述>		
臨時休業となった事例がない。		
臨時休業になった場合、実習日にするかどうかは実習校が判断する。		
臨時休業になった日を実習日にするかは、実習校の状況の聞き取りや実習校と協議し、大学が決定する。		
臨時休業が想定される場合、実習先の方針決定の結果を実習生から大学へもしくは実習先から大学へ連絡があり、把握している。		
臨時休業は附属校は大学に、公立校は教育委員会に確認している。		
臨時休業の場合、実習校の判断によるが、基本的には実習生が出勤した場合は出勤日にしている。		
臨時休業になり児童・生徒が登校しない場合でも緊急時の対応等を学ぶため実習させていただくことを基本としているが、地域によって状況が異なるため実習先に確認することとしている。実習先の判断により在宅勤務になった場合でも教材研究や研究授業に向けて準備等を行い、成果物の記録等があれば大学の判断により当該日を実習日と認める場合がある。		

(複数回答あり)

(42) 介護等体験の実施先

質問文:

介護等体験を次の施設や学校等で実施していますか。上記以外にありましたら記入してください。
また、貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

介護等体験を特別支援学級、療育等による長期欠席生徒等のための特別の教育課程を編成する学校、通級による指導をおこなう学校で実施している大学はほとんどありませんでした。また、日本語に通じない児童生徒に対する特別の教育課程を編成する学校や不登校児童生徒のための特別の教育課程を編成する学校で実施している大学はありませんでした。

図表【1】(42) 介護等体験の実施先

介護等体験の実施先	回答数と割合 (n=339)	
特別支援学校	252	74.3%
福祉施設や老人保健施設	251	74.0%
特別支援学級を設置する学校	16	4.7%
療養等による長期欠席生徒等のための特別の教育課程を編成する学校	6	1.8%
通級による指導を行う学校	4	1.2%
日本語に通じない児童生徒に対する特別の教育課程を編成する学校	0	0.0%
不登校児童生徒のための特別の教育課程を編成する学校	0	0.0%

(複数回答あり)

(43) 介護等体験と教育実習等の関連

質問文：

介護等体験, 学校体験活動, 教育実習をどのように実施していますか。上記以外にありましたら記入してください。また, 貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

介護等体験を教育実習や学校体験活動と関連づけたり, 教職課程の授業に位置づけている大学は少なく, 3割程度でした。

図表【1】(43) 介護等体験の実施先

介護等体験、学校体験活動、教育実習の実施	回答数と割合 (n=339)	
介護等体験を教職課程の授業に位置づけている	112	33.0%
介護等体験と教育実習を事前事後指導等で関連づけている	51	15.0%
介護等体験と学校体験活動を事前事後指導等で関連づけている	24	7.1%
教育実習と介護等体験を兼ねて実施している	11	3.2%
介護等体験と学校体験活動を同じ学校で実施できるようにしている	4	1.2%
介護等体験と教育実習を同じ学校で実施できるようにしている	4	1.2%
<上記以外, 貴学の特徴や好事例など自由記述>		
介護等体験については事前事後指導の充実を図っている。授業としては行っていない。		
介護等体験は単位化されていない(「授業」と呼んでいいかわからない)。		

(複数回答あり)

(44) 在外教育施設における教育実習の実績

質問文：

日本人学校などの在外教育施設で教育実習をおこなった実績がありますか。上記以外にありましたら記入してください。また, 貴学の特徴や好事例を記入してください。

<結果の概要>

在外教育施設で教育実習をおこなった実績のある大学はほとんどなく, 1%以下でした。

図表【1】(44) 在外教育施設における教育実習の実績

在外教育施設での教育実習の実施実績	回答数と割合 (n=339)	
ある	3	0.9%
<上記以外, 貴学の特徴や好事例など自由記述>		
香港, 1名, 中学校。韓国, 1名, 中学校。		
インドネシア ジャカルタ日本人学校 小学校		
香港, 1名, 中学校		

【2】中教審答申を受けた教育実習のあり方

中教審答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～」では、理論と実践の往還による省察を取り入れることや教育実習の柔軟な履修形式が提言されています。これに関することについてお尋ねします。

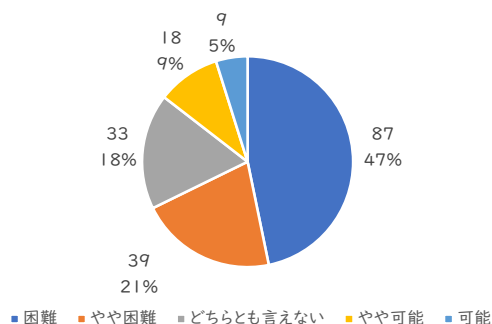
(1) 教育実習実施の早期化

質問文：

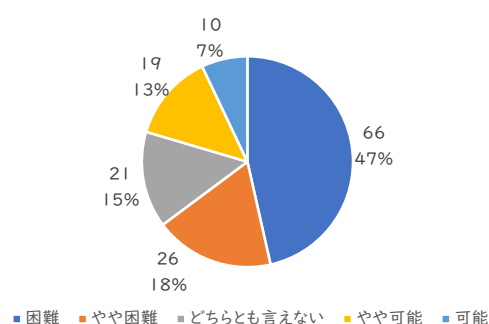
貴学の教育実習の実施時期を今よりも早めることは可能ですか。

<結果の概要>

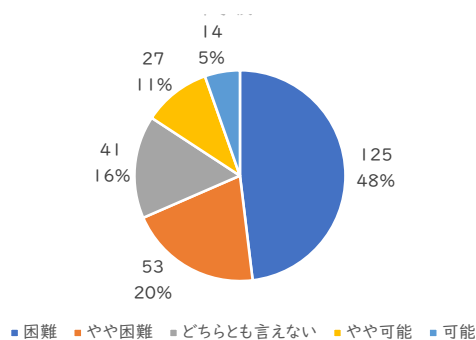
すべての免許種において、半数近くから6割強が教育実習の実施の早期化について「困難」と回答しました。「困難」と「やや困難」は7割前後、逆に、1割から2割程度が「可能」と「やや可能」でした。



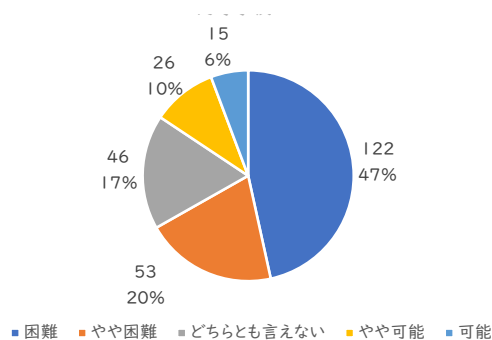
図表【2】(1)① 実施時期の早期化 幼稚園



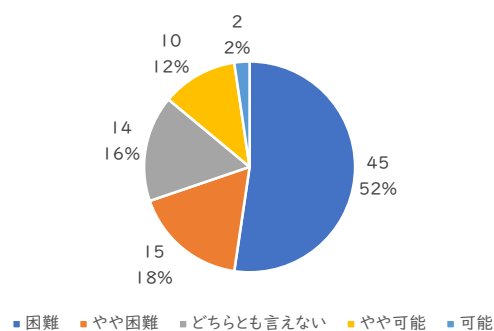
図表【2】(1)② 実施時期の早期化 小学校



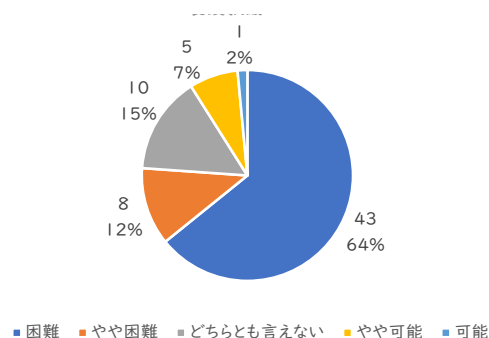
図表【2】(1)③ 実施時期の早期化 中学校



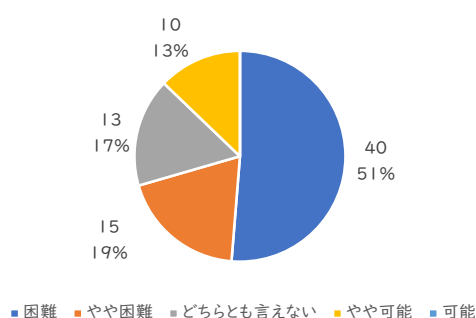
図表【2】(1)④ 実施時期の早期化 高等学校



図表【2】(1)⑤ 実施時期の早期化 特別支援



図表【2】(1)⑥ 実施時期の早期化 養護教諭



図表【2】(1)⑦ 実施時期の早期化 栄養教諭

(2) 早期化の影響

質問文：

教育実習の実施時期を早めるとどのような影響が考えられますか。

<結果の概要>

教育実習実施の早期化に対する肯定的な意見として、「そう」と「少しそう」を合わせて、「早くから学校現場や子どものことを知ったり、慣れたりできる」は7割近く、「早くから教職に就く意欲を高めることができる」、「教員採用試験と教育実習の時期が重ならなくなる」、「学校現場での実践と大学での学修の往還ができる」、「大学の教職科目の理解を深めることができる」は4割から半数近くの回答がありました。

その一方で、「教職課程を見直す必要が生じる」、「事前指導を充実させる必要がある」、「教育委員会や実習校に実習を受入れてもらえるか不安がある」、「大学の指導教員の負担が増える」、「教育委員会や実習校の負担が増える」、「大学の教務の管理や手続きの負担が増える」といった教学マネジメント上の課題や懸念について、「そう」および「少しそう」を合わせると6割から8割程度が回答しています。

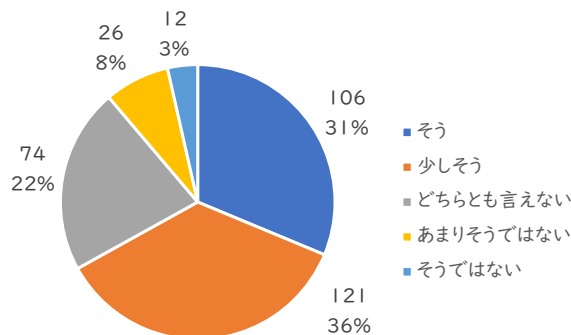
「教育実習の目標や評価を見直す必要がある」、「実習生の学修が十分でないので、実習活動が今より平易になる」といった教育実習の質の担保への不安も半数程度が示しています。

また、「免許取得者が増える」、「免許取得が容易になる」について「そう」および「少しそう」の回答の割合はとても小さく、逆に「あまりそうではない」と「そうではない」を合わせると半数から6割程度で、実習実施の早期化が免許取得に繋がる期待は高くないようです。

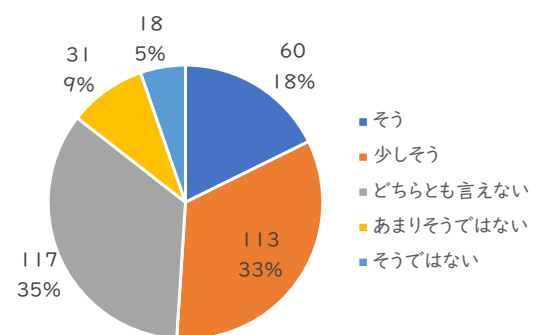
「卒業研究や卒業論文と教育実習の時期が重ならなくなる」、「就職活動と教育実習の時期が重ならなくなる」は肯定的意見と否定的意見がそれぞれ3割から4割と、意見が割れています。

4割近くが「教職コアカリキュラムの目標が達成困難になる」と答えた一方で、「ディプロマポリシーを見直す必要がある」については、「そうではない」「あまりそうではない」の否定的意見が4割程度でした。

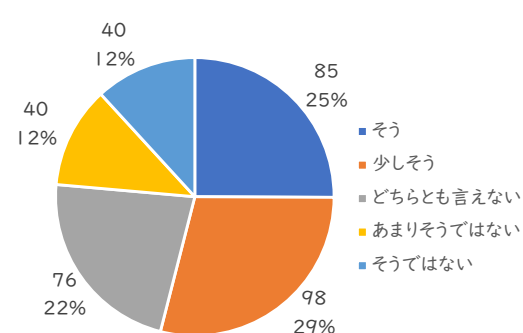
「学生の状況に合わせて実習を履修できる」については半数が「そうではない」「あまりそうではない」と否定的でした。



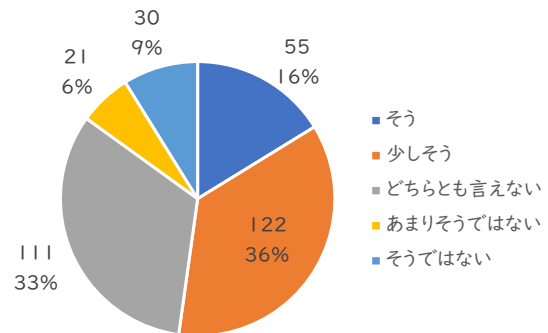
図表【2】(2)① 早くから学校現場や子どものことを知ったり、慣れたりできる



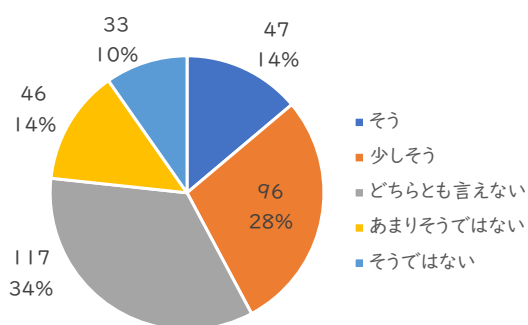
図表【2】(2)② 早くから教職に就く意欲を高めることができる



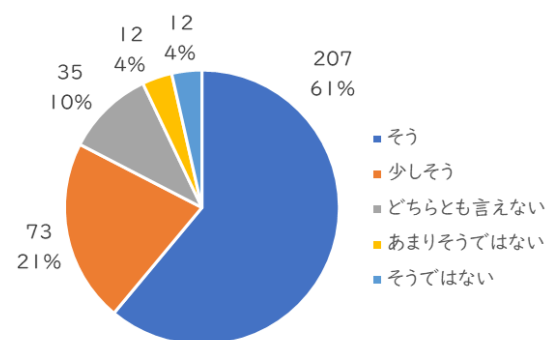
図表【2】(2)③ 教員採用試験と教育実習の時期が重ならなくなる



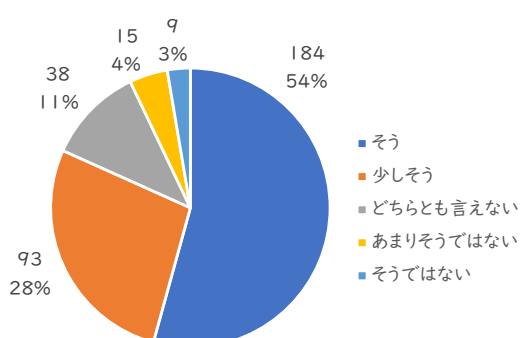
図表【2】(2)④ 学校現場での実践と大学での学修の往還ができる



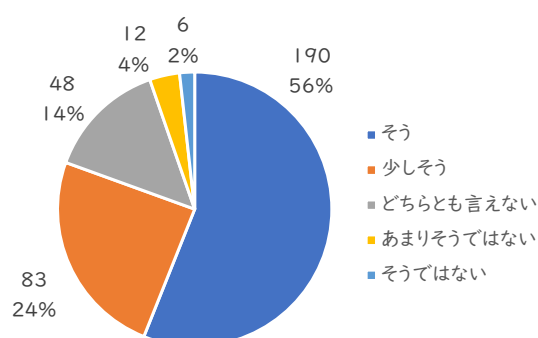
図表【2】(2)⑤ 大学の教職科目の理解を
深めることができる



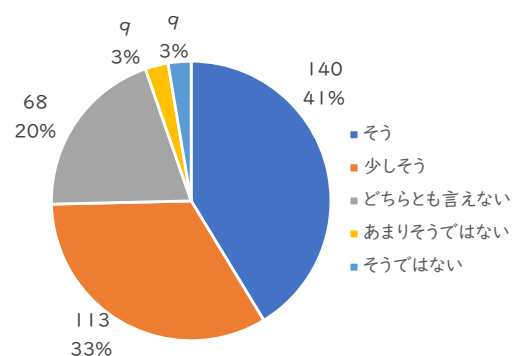
図表【2】(2)⑥ 教職課程を見直す必要が
生じる



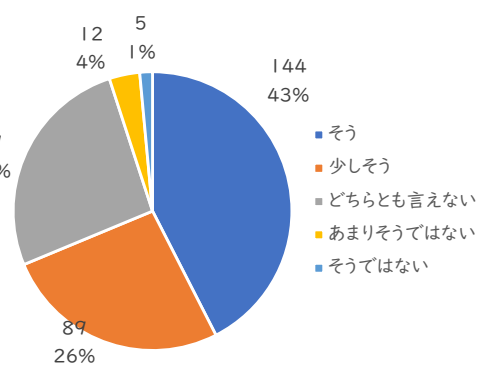
図表【2】(2)⑦ 事前指導を充実させる
必要がある



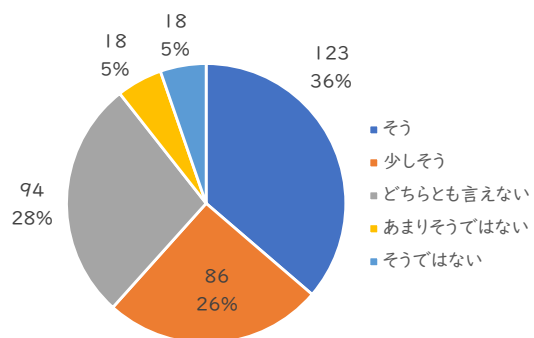
図表【2】(2)⑧ 教育委員会や実習校に
実習を受け入れてもらえるか不安がある



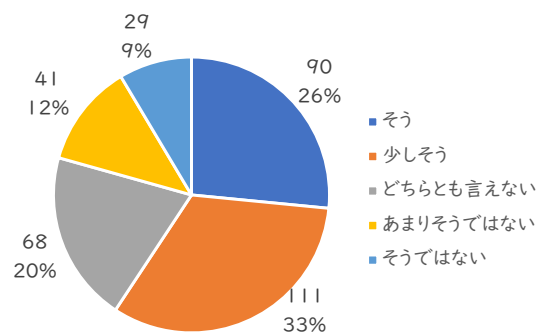
図表【2】(2)⑨ 大学の指導教員の負担
が増える



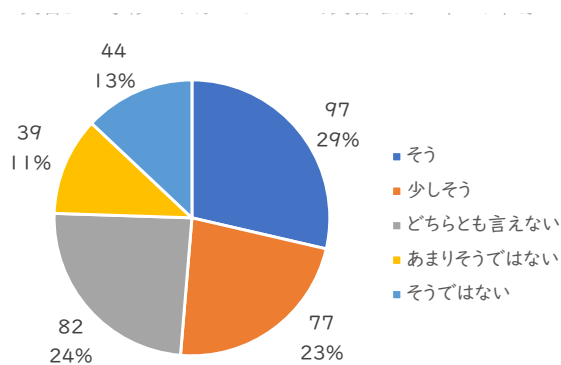
図表【2】(2)⑩ 教育委員会や実習校の
負担が増える



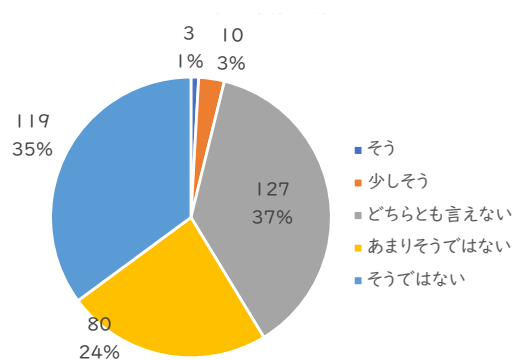
図表【2】(2)⑪ 大学の教務の管理や手続きの負担が増える



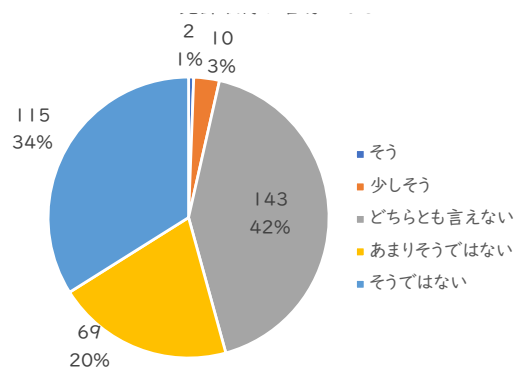
図表【2】(2)⑫ 教育実習の目標や評価を見直す必要がある



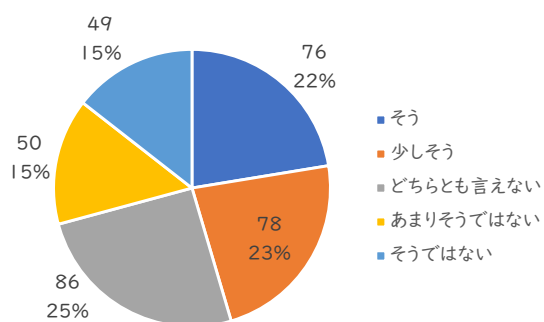
図表【2】(2)⑬ 実習生の学修が十分でないので、実習活動が今より平易になる



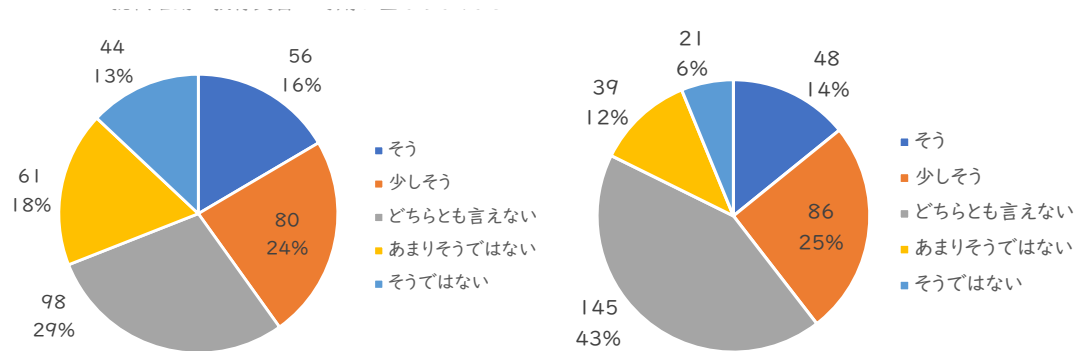
図表【2】(2)⑭ 免許取得者が増える



図表【2】(2)⑮ 免許取得が容易になる

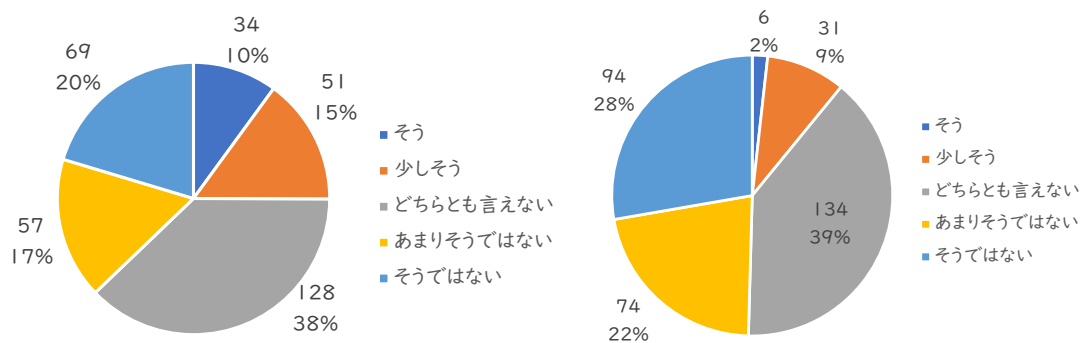


図表【2】(2)⑯ 卒業研究や卒業論文と教育実習の時期が重ならなくなる



図表【2】(2) ⑰ 就職活動と教育実習の時期が重ならない

図表【2】(2) ⑱ 教職コアカリキュラムの目標が達成困難になる



図表【2】(2) ⑲ ディプロマポリシーを見直す必要がある

図表【2】(2) ⑳ 学生の状況に合わせて実習を履修できる

自由記述例

- ・実施を早期化した場合、移行期の混乱が予想される。
- ・1ヶ月程度の前倒しや分散化ならば検討は可能である。
- ・編入や転入の学生の実習時期に課題が生じる。
- ・栄養士や管理栄養士の資格取得のための実習と時期が重なるため困難である。
- ・2年次から教職課程を開始するため、3年生で実習に行くために実習要件の科目を修得させることは不可能。
- ・実習時期を早めても、教員採用試験も早める動きが出ているのでたいして変わらない。
- ・教員採用試験の早期化等に対応して教育実習を前倒したが、高等学校の実習は実習校の理解が得られず早期化できなかった。

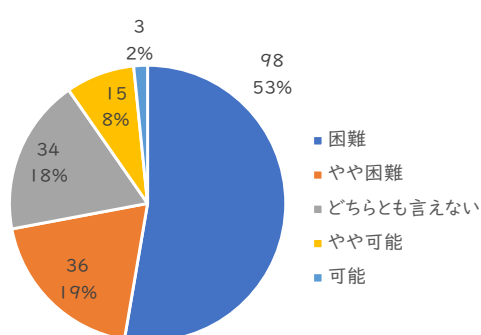
(3) 教育実習実施の分散化

質問文：

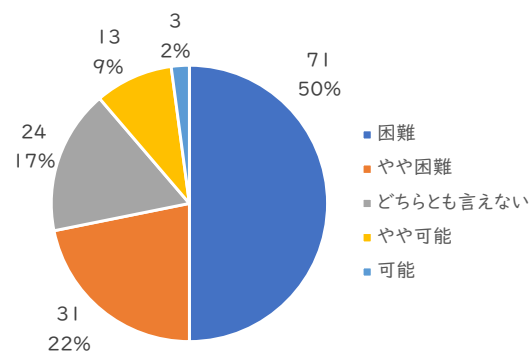
教育実習の実施を分散する（複数回に分けて実施する）ことは可能ですか。現在1回実施の場合は2回以上に分けて実施、現在2回実施の場合は3回以上に分けて実施することを想定して回答してください。

<結果の概要>

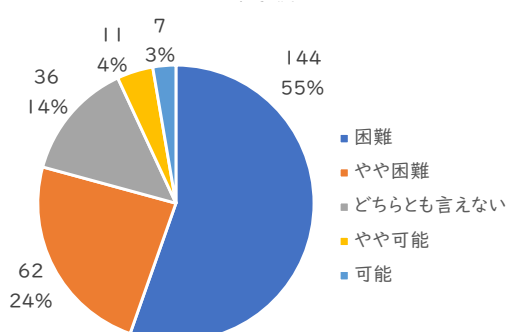
いずれの免許種も半数から7割近くが「困難」、「やや困難」と「困難」を合わせると7～8割で、逆にどの免許種も1割前後が「可能」および「やや可能」でした。教育実習実施の分散化へはほぼ否定的と考えられます。



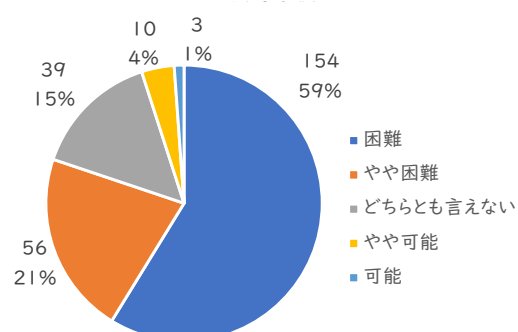
図表【2】(3)① 教育実習の分散化・幼稚園



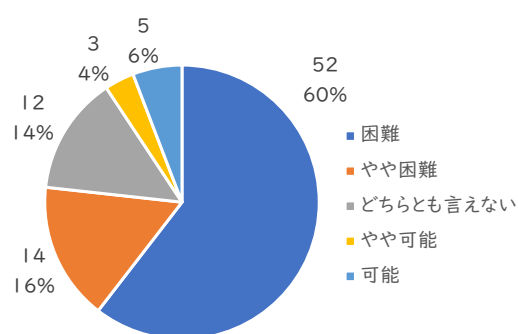
図表【2】(3)② 教育実習の分散化・小学校



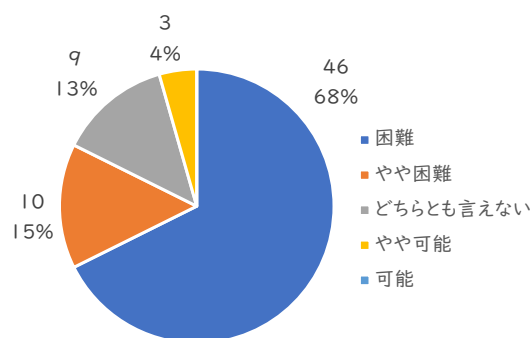
図表【2】(3)③ 教育実習の分散化・中学校



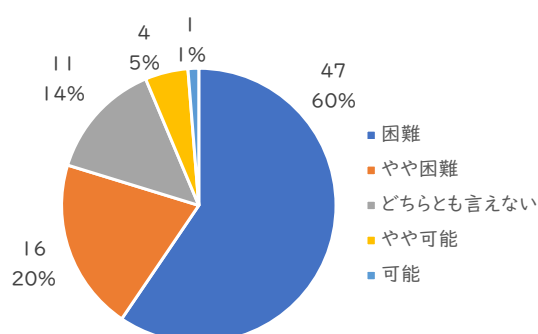
図表【2】(3)④ 教育実習の分散化・高等学校



図表【2】(3)⑤ 教育実習の分散化・特別支援学校



図表【2】(3)⑥ 教育実習の分散化・養護教諭



図表【2】(3)⑦ 教育実習の分散化・栄養教諭

(4) 分散化の影響

質問文：

教育実習の実施を分散する（複数回に分けて実施する）とどのような影響が考えられますか。

<結果の概要>

「早くから学校現場や子どものことを知ったり、慣れたりできる」、「早くから教職に就く意欲を高めることができる」、「大学の教職科目の理解を深めることができる」、「学校現場での実践と大学での学修の往還ができる」について、肯定的な回答が否定的な回答を上回りました。

その一方で、「教育委員会や実習校に実習を受入れてもらえるか不安がある」、「教育委員会や実習校の負担が増える」、「大学の教務の管理や手続きの負担が増える」、「大学の指導教員の負担が増える」が、「そう」および「少しそう」を合わせると8割から9割、「教職課程を見直す必要が生じる」、「事前指導の回数を増やす必要がある」、「事前指導を充実させる必要がある」、「事後指導の回数を増やす必要がある」、「事後指導を充実させる必要がある」といった実習指導の充実の必要性が7割前後、「実習生の学修が十分でないので、実習活動が今より平易になる」、「教育実習の目標や評価を見直す必要がある」といった、教育実習の質の不安も示されています。

また、「免許取得が容易になる」、「免許取得者が増える」について、「そう」および「少しそう」の回答の割合は小さく、「あまりそうではない」と「そうではない」を合わせると6割程度で、実習実施の分散化が免許取得に繋がるという期待は高くないと考えられます。

「卒業研究や卒業論文と教育実習の時期が重ならなくなる」、「就職活動と教育実習の時期が重ならなくなる」、「教員採用試験と教育実習の時期が重ならなくなる」のいずれも肯定より否定の回答が上回っています。「学生の状況に合わせて実習を履修できる」も否定の回答が上回っています。

自由記述例

- ・開放制の教員養成にはデメリットが多い。
- ・留学の機会を損なう。
- ・途中で教職の履修を放棄し、今以上に教職課程離れを起こす可能性がある。
- ・地方出身者にとっては経済的負担が増える。
- ・看護領域の実習があるため、分散化は困難。
- ・以前分散化していたが、教育現場から不評で分散化を止めた。
- ・令和5年度より、附属学校における教育学部の実習を分散化する。

(5) 教育実習の実施曜日等の固定化

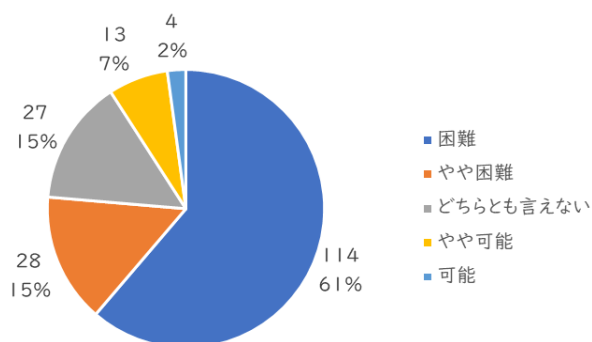
質問文：

教育実習を通年を通して決まった曜日等に実施することは可能ですか。

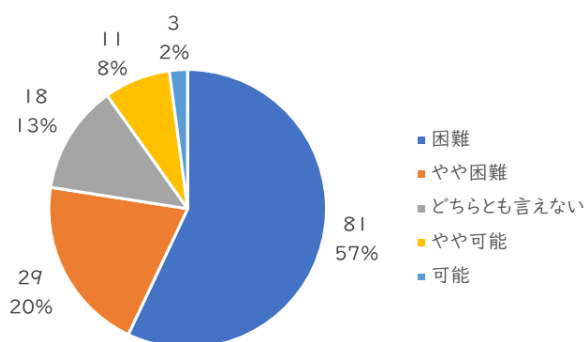
<結果の概要>

いずれの免許種においても、「困難」および「やや困難」の回答を合わせると7割から8割もしくはそれ以上で、逆に「可能」および「やや可能」は1割程度かそれ以下でした。

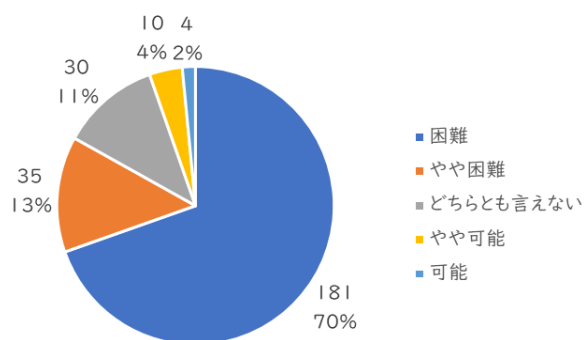
決まった曜日に教育実習を実施するスタイルについて否定的な見方が大半と言えます。



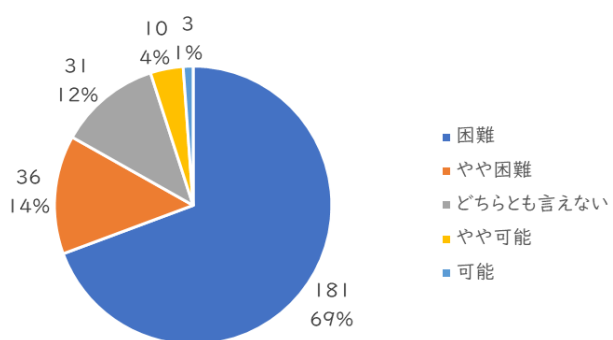
図表【2】(5)① 決まった曜日等の実施・幼稚園



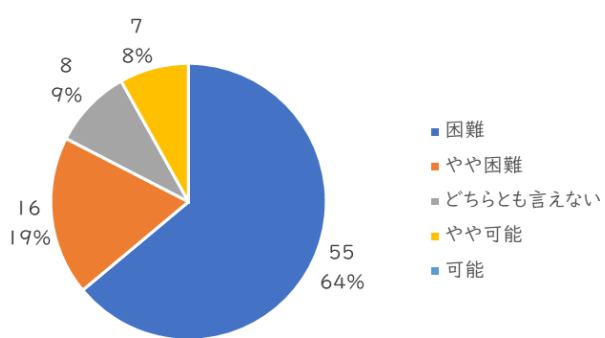
図表【2】(5)② 決まった曜日等の実施・小学校



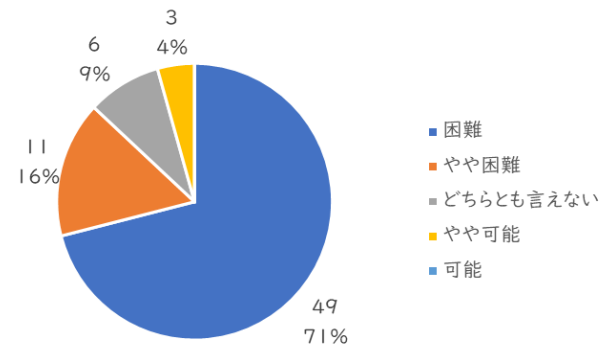
図表【2】(5)③ 決まった曜日等の実施・中学校



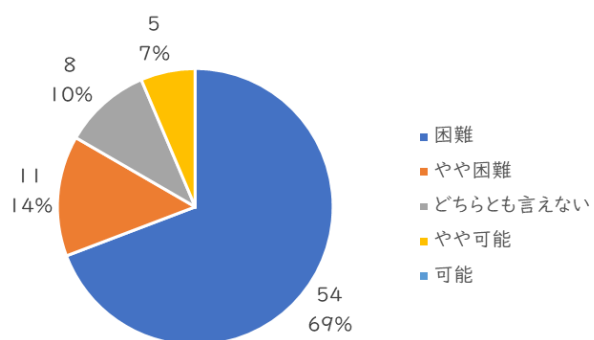
図表【2】(5)④ 決まった曜日等の実施・高等学校



図表【2】(5)⑤ 決まった曜日等の実施・特別支援学校



図表【2】(5)⑥ 決まった曜日等の実施・養護教諭



図表【2】(5)⑦ 決まった曜日等の実施・栄養教諭

(6) 実施曜日等固定化の影響

質問文：

教育実習を通年を通して決まった曜日等を実施するとどのような影響が考えられますか。

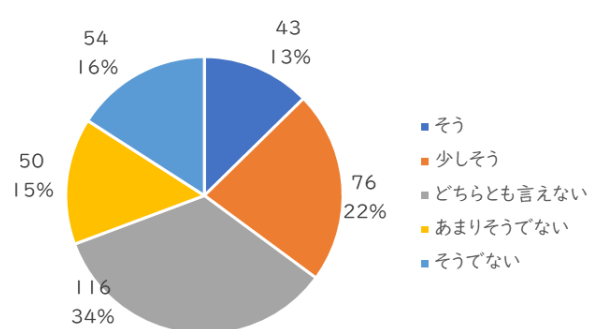
<結果の概要>

「学校現場での実践と大学での学修の往還ができる」については「そう」と「少しそう」の肯定的な回答が「そうでない」と「あまりそうでない」の否定的な回答を上回ったものの、「早くから学校現場や子どものことを知ったり、慣れたりできる」と「大学の教職科目の理解を深めることができる」については肯定的な回答と否定的な回答の割合はほぼ同程度でした。

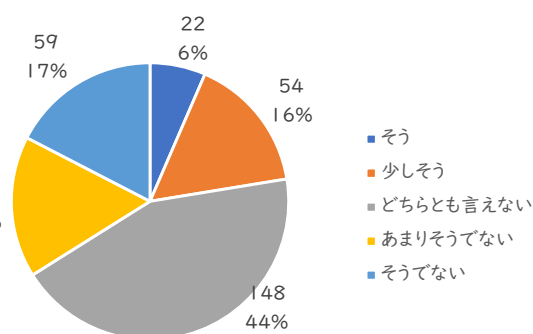
「教職課程を見直す必要が生じる」、「時間割を変更する必要がある」、「教育実習と大学の授業の二重履修が生じる」といった教学上の懸念についての回答が7割から8割ありました。

また、「教育委員会や実習校に実習を受入れてもらえるか不安がある」、「教育委員会や実習校の負担が増える」、「大学の教務の管理や手続きの負担が増える」、「大学の指導教員の負担が増える」についても、「そう」および「少しそう」の回答が8割もしくはそれ以上でした。「週当たりの授業時間数が少ない教科の実習がしにくくなる」や「単元全体を通した教科指導がしにくくなる」などについても7割程度の肯定的回答があり、実習活動の内容に影響が及ぶことへの懸念があります。

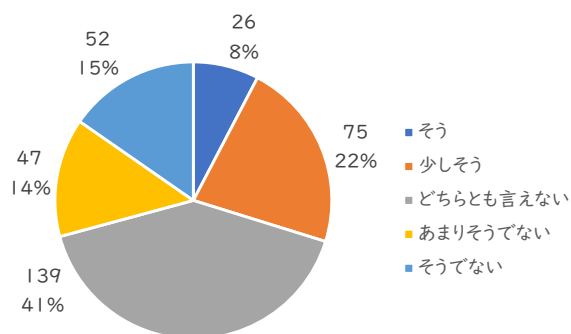
その一方で、「免許取得が容易になる」、「免許取得者が増える」について、「そう」および「少しそう」の回答の割合はとても小さい一方で、「あまりそうではない」と「そうでない」が6割程度で、教育実習を決まった曜日等を実施することが免許取得に繋がるという期待は高くないと考えられます。



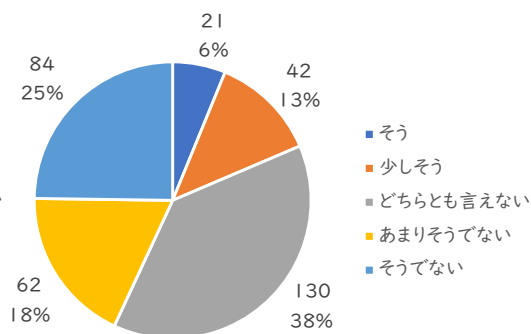
図表【2】(6)① 早くから学校現場や子どものことを知ったり、慣れたりできる



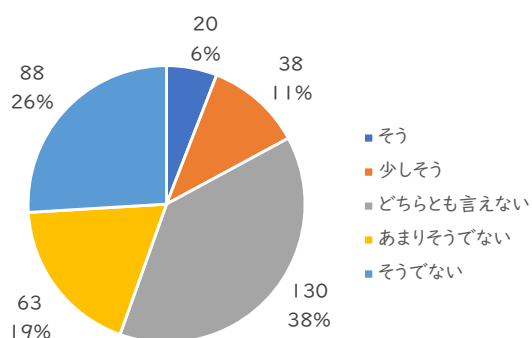
図表【2】(6)② 早くから教職に就く意欲を高めることができる



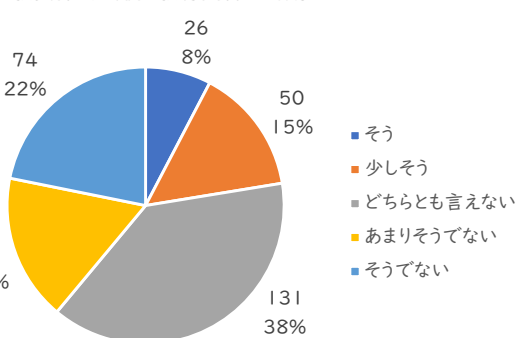
図表【2】(6)③ 大学の教職科目の理解を
深めることができる



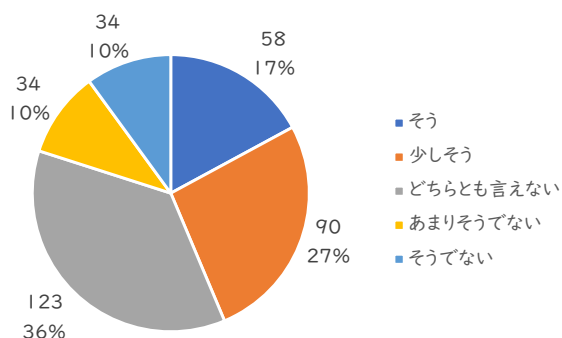
図表【2】(6)④ 卒業研究や卒業論文と教育実習の
時期が重ならない



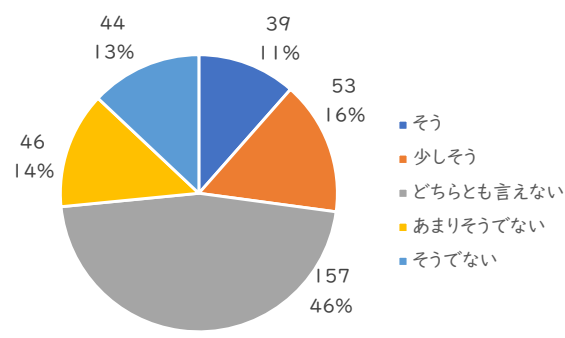
図表【2】(6)⑤ 就職活動と教育実習の時期が
重ならない



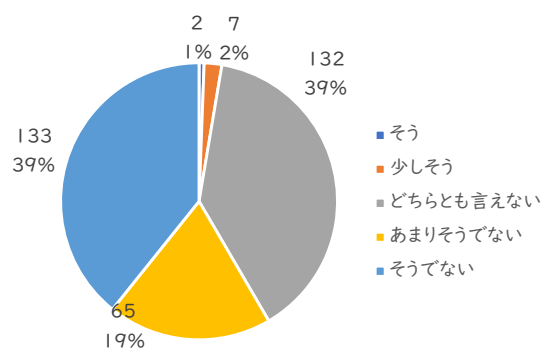
図表【2】(6)⑥ 教員採用試験と教育実習の時期が
重ならない



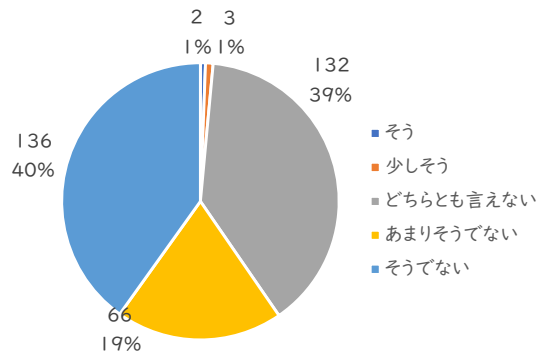
図表【2】(6)⑦ 学校現場での実践と大学での
学修の往還ができる



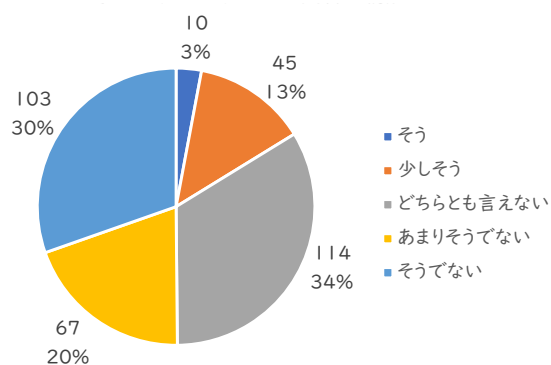
図表【2】(6)⑧ 実習生の学修が十分でないので、
実習活動が今より平易になる



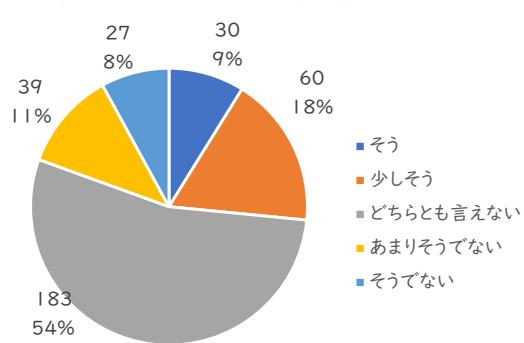
図表【2】(6)⑨ 免許取得が容易になる



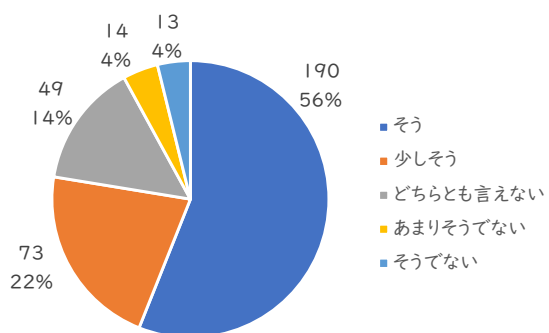
図表【2】(6)⑩ 免許取得者が増える



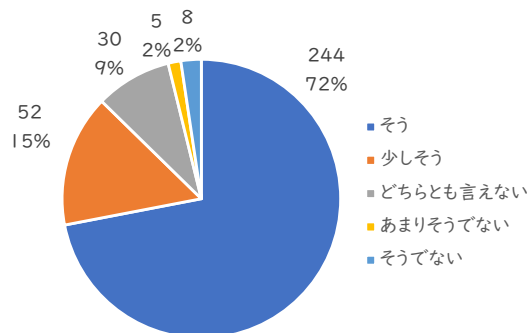
図表【2】(6)⑪ 学生の状況に合わせて実習を履修できる



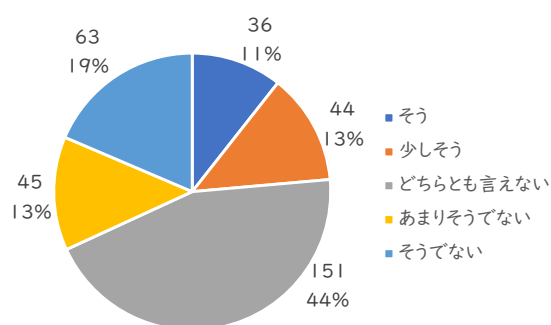
図表【2】(6)⑫ 教職コアカリキュラムの目標が達成困難になる



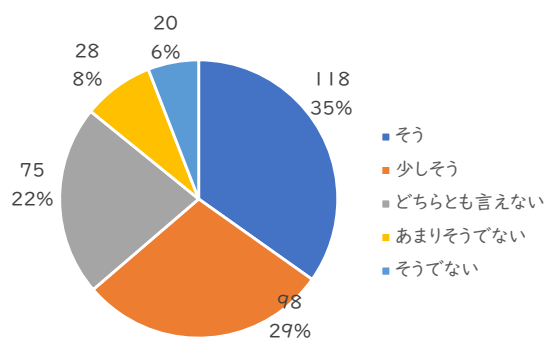
図表【2】(6)⑬ 教職課程を見直す必要が生じる



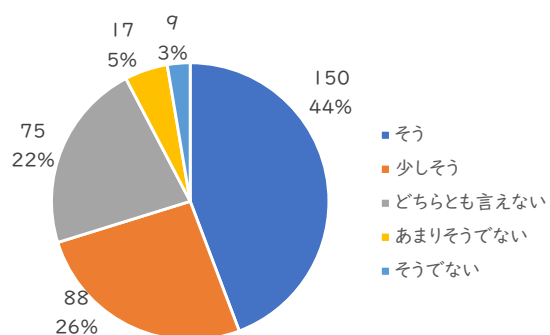
図表【2】(6)⑭ 時間割を変更する必要がある



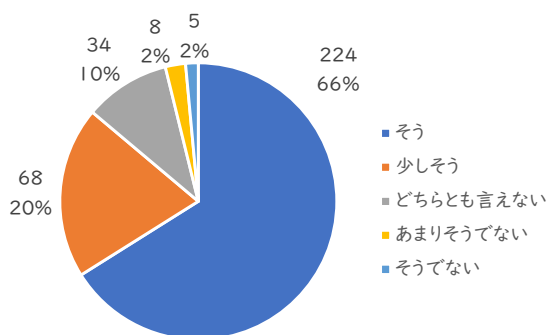
図表【2】(6)⑮ ディプロマポリシーを見直す必要がある



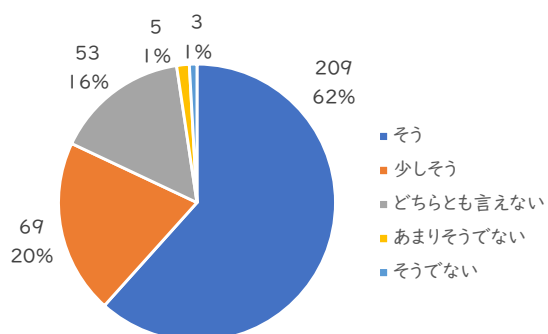
図表【2】(6)⑯ 教育実習の目標や評価を見直す必要がある



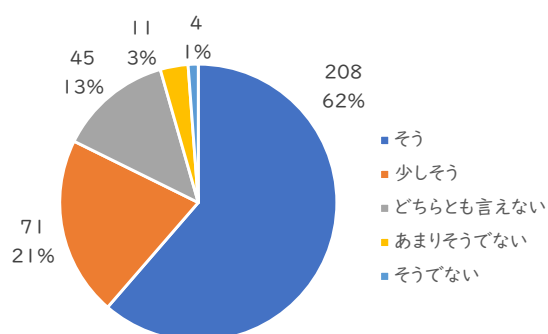
図表【2】(6)⑰ 事前指導を充実させる必要がある



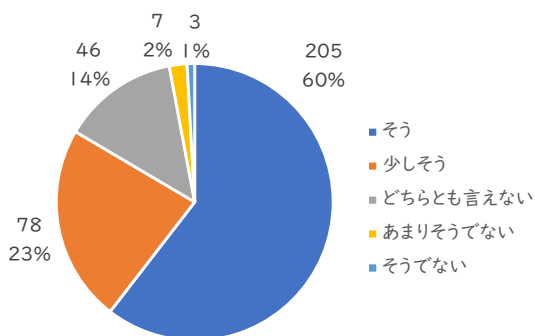
図表【2】(6)⑱ 教育委員会や実習校に実習を受け入れてもらえるか不安がある



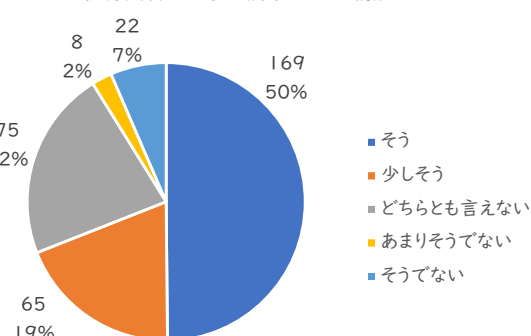
図表【2】(6)⑲ 教育委員会や実習校の負担が増える



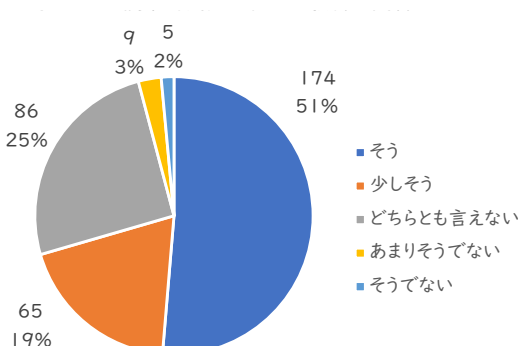
図表【2】(6)⑳ 大学の教務の管理や手続きの負担が増える



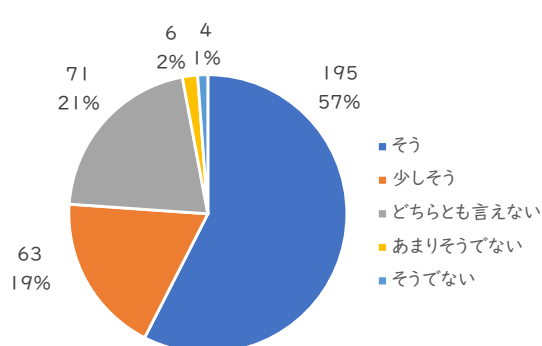
図表【2】(6)㉑ 大学の指導教員の負担が増える



図表【2】(6)㉒ 教育実習と大学の授業の二重履修が生じる



図表【2】(6)㉓ 週当たりの授業時間数が少ない教科の実習がしにくくなる



図表【2】(6)㉔ 単元全体を通した教科指導がしにくくなる

自由記述例

- ・実習校の時間割上, 同じクラスの授業しか担当できない。
- ・大学の授業にいつも履修者の誰かが欠席している状態になる。
- ・実習校が遠方の学生が少なくないので, 負担が大きい。

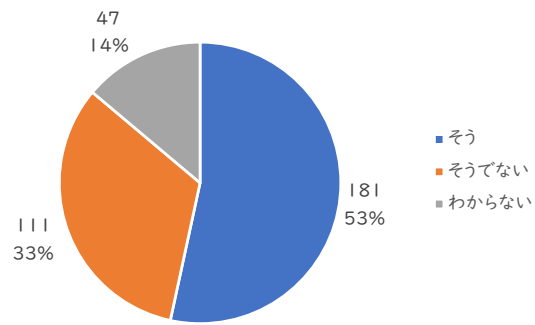
(7) 学校体験活動と大学の授業の結びつき

質問文:

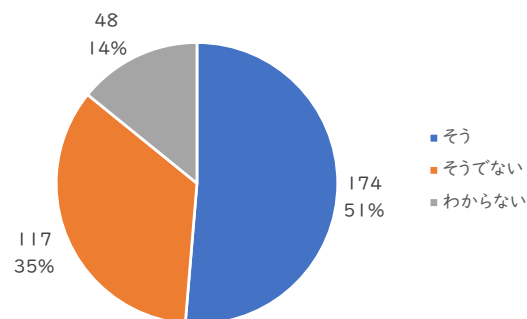
学校体験活動と大学の授業での学修をどのように結びつけていますか。

<結果の概要>

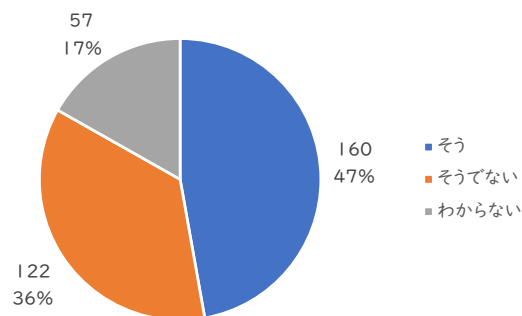
学校体験活動の事前指導, 事後指導やふりかえりで, 学校体験活動と大学の授業での学修とつなげているという回答がそれぞれ半数程度, 教職実践演習を活用しているという回答も半数弱ありました。授業科目の中で学校体験活動での学びや経験を扱っているという回答も4割前後ありました。



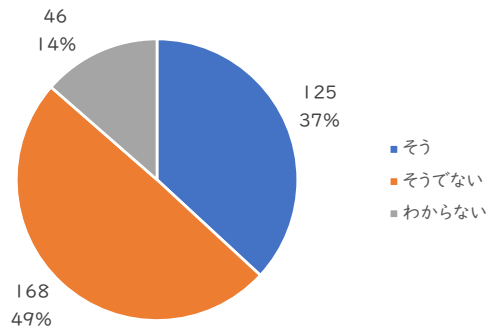
図表【2】(7)① 学校体験活動の事前指導をおこない，
 その中で大学の授業での学修とつなげている



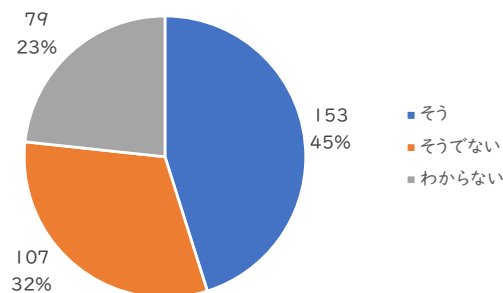
図表【2】(7)② 学校体験活動の事後指導やふりかえりをおこない，
 その中で大学の授業での学修とつなげている



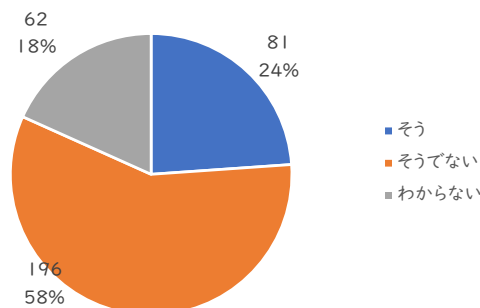
図表【2】(7)③ 教職実践演習で学校体験活動と大学の授業での学修をつなげている



図表【2】(7)④ 学校体験活動での学びや経験について扱う
授業科目(教職実践演習を除く)を設定している



図表【2】(7)⑤ 学校体験活動での学びや経験を
教職科目等の担当教員が裁量や任意で取り上げている



図表【2】(7)⑥ カリキュラムマップやカリキュラムツリーで、
学校体験活動と授業科目の関連を明記している

自由記述例

- ・学校体験は単位化しておらず、任意で県教育委員会が実施する学校体験制度にて実施している。
- ・現在開講しているボランティア関連科目を、サービスラーニング科目へと拡充、体系的な編成として教職課程に組み込むことを検討中。サービスラーニング科目は、大学で学んだ知識や技能をもって、地域貢献活動や学校貢献活動を行い、省察しながら発展させる経験的学修である。
- ・授業科目ではなく、1年次の夏休みにプレ実習として3日以上全学生がボランティア活動に参加する。学生全員がボランティアサークルに所属し、交通費や昼食代などを学友会費から出す。
- ・教育実習の一環である「学校参観(2年時必修)」と学生が自由に選択できる「学校ボランティア

(一定時間以上実施で授業単位として認定)」がある。

- ・学校インターンシップ, 教育インターンシップ, 教職体験, 教職現場学習などの名称の独自の授業科目を開設し, 学校体験活動を大学の授業に取り入れている。
- ・教員経験者が専門指導員として学校現場活動のふりかえりをおこなう。
- ・履修カルテに学校体験活動を記入させ, それを活用して教職課程の学びに統合させる。
- ・学校体験活動を独自の教育実践教養科目に位置づけているが, 教職課程科目への移行の余地がある。

(8) 教育実習と大学の授業の結びつき

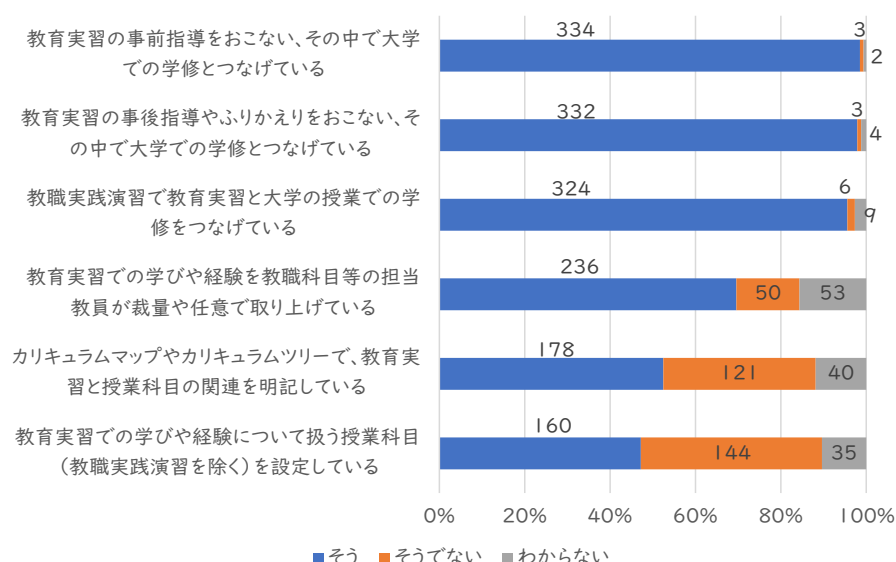
質問文:

教育実習と大学の授業での学修をどのように結びつけていますか。

<結果の概要>

教育実習の事前指導, 事後指導やふりかえりまた教職実践演習の中で教育実習と大学での学修をつなげているという回答がほとんどでしたが, 教職実践演習を除く授業科目で教育実習での学びや経験を扱っているという回答は半数から7割程度でした。

カリキュラムマップやカリキュラムツリーで, 教育実習と授業科目の関連を明記しているのは半数程度でした。



図表【2】(8) 教育実習と大学の学修のつながり

自由記述例

- ・ポートフォリオを活用し省察をおこなわせている。それを, 教職実践演習の受講要件にしている。
- ・講習会を開催して, 省察のしかたを指導している。
- ・教育実習の事前・事後指導や教職実践演習で異学年, 教科等, 校種で交流, 省察させている。

・教育実習の手引きや小冊子を活用して省察やフィードバックをおこなわせている。

(9) 省察の活動

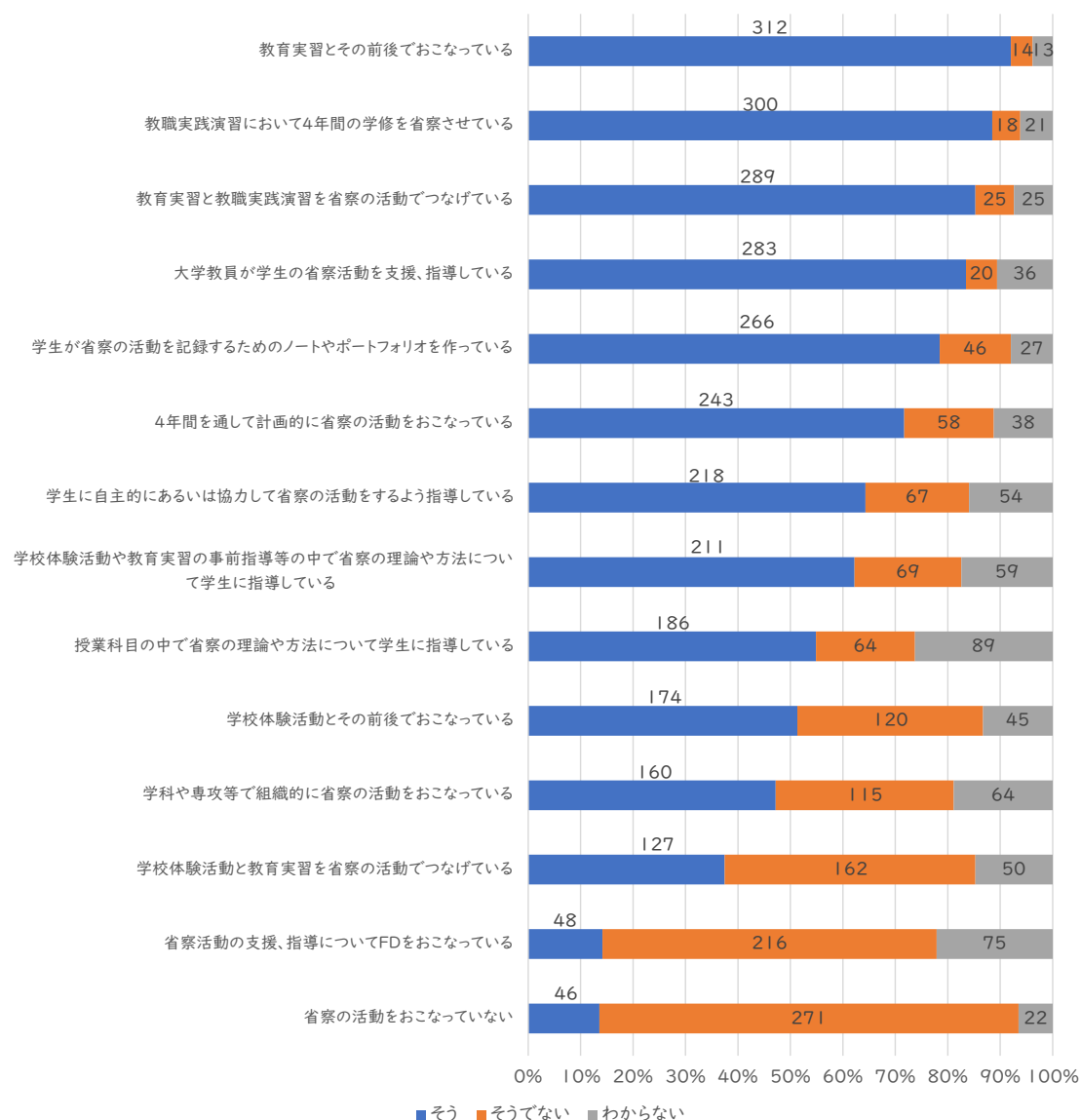
質問文：

省察の活動をどのようにおこなっていますか。

<結果の概要>

ほとんどが教育実習およびその前後、教職実践演習で省察をおこなっています。ポートフォリオの活用や4年間を通しての計画的な省察についても7割程度がおこなっています。

省察の理論や方法についての指導を授業科目、学校体験活動や教育実習の事前指導等で実施しているという回答は6割前後、組織的に省察を指導しているという回答は半数弱で、8割程度が、大学教員が省察の指導や支援をしていると回答したものの、FDをおこなっているのは1割程度でした。



図表【2】(9) 省察の活動

自由記述例

- ・成果報告会で後輩へのアドバイスをを行い、実習の事前の学びの場に行っている。
- ・教職実践演習において実習の内容をプレゼンテーションする。
- ・教育実習について履修カルテを作成し、教職実践演習での指導に活用する。
- ・教職課程全体のPDCA, 特にPに学生・院生の声を反映させる仕組みの導入を検討中。

おわりに

「理論と実践の往還を通じた教育実習等の在り方に関する研究」【webアンケート調査結果の概要・全体編】をご一読いただきありがとうございました。

本調査結果について、ご質問、ご意見等がございましたら、奥付の連絡先までお知らせいただきますれば幸いです。

令和5年度 文部科学省受託事業

「教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」

理論と実践の往還を通じた教育実習等の在り方に関する研究

webアンケート調査結果の概要：全体編

発行日：令和6年3月31日

発行者：国立大学法人 大阪教育大学

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>

582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

E-mail: kyomuka@bur.osaka-kyoiku.ac.jp